

2023 年度
九州共立大学
地域連携推進センター 報告書

令和 6 年 7 月
地域連携推進センター

令和5年度 九州共立大学 地域連携推進センター報告書
発刊に寄せて

地域連携推進センター 所長
山田 明

関係者の皆様には、日頃より地域連携推進センターの活動に御理解と御協力を賜り、厚くお礼を申し上げます。

社会教育・生涯学習においては、地域課題の解決を通しての人づくり・つながりづくり・地域づくりに期待が集まっています。地域の住民が運営に主体的に関わること、住民が自ら希望することを学び、その成果を地域づくりの人材として活かすことが求められているのです。この時代の要請に対して、自治体・地域・大学間の地域連携は有効な手段の一つだと考えています。大学の役割は地域の拠点として、人づくり・つながりづくり・地域づくりを支援することです。九州共立大学（以下、本学）では、地域連携推進センターが地域に開かれた大学の架け橋として、地域連携の窓口の役割を果たしています。知識・人材を活用した地域連携、研究推進、生涯学習支援の各事業を一体として行っており、地域活性化、人材育成の一翼を担っています。

以上のような社会のニーズを受け、山積する地域課題を改善するためには、自治体をはじめ地域活動の中核を担っている多様な分野の組織、団体、地域の住民の連携協働が必要不可欠です。すなわち、地域総ぐるみで総合的に「つながり合う」ことが必要となるのです。その意味で、本学が推進する包括的地域連携協定に基づく地域連携事業プランは多様な主体がそれぞれの立場から主体的に取り組みつつ、必要に応じて「つながり合う」ことで地域課題の解決に多大な貢献をしています。

令和5年度の実施報告書を発刊致します。報告書は包括的地域連携協定に基づく活動の成果をまとめたものです。これからも協定先との連携協働を通じて活動内容をより充実させ、人づくり・つながりづくり・地域づくりの構築を目指した活動を継続的に展開していきたいと考えています。

本学は地域と共に歩む大学の実現と学生の人材育成に重点を置き、学是である「自律処行（自らの良心に従い、事に処し善を行う）」の具現化を目指しています。この基本方針に沿って地域連携推進センターでは、社会のニーズに基づく先進的な地域連携システム（九共大モデル）を構築し、「地域の皆様と共に」をモットーに、オープンな存在としてその機能を提供して参ります。皆様方のご協力をお願い申し上げます。

地域連携推進センターについて

○目的

平成6（1994）年に設置した「生涯学習研究センター」は、地域における生涯学習社会の実現を図ることを目的とし、大学を地域社会に開放する際の触媒的な機能として、ここを拠点とした社会人や地域住民並びに学生に対する多様な学習の提供と、生涯学習に関する研究の推進を展開してきたところであるが、近年、「地方創生」が声高に叫ばれるなか、大学にあっては「地域連携・地域貢献」の拠点（中核）となるのがこれまで以上に強く求められており、大学全体の組織化された地域との連携協働体制の構築が喫緊の課題となっている。

このことから、本学においては上述の「生涯学習研究センター」の機能を核とし、産業界等との研究協力及び学術交流の推進を目的として設置した「総合研究所」、ならびに大学が行う地域連携活動に係る学内情報の一元管理と対外的な窓口業務や連絡調整を行う「地域連携推進室」の三つの組織を統合した「地域連携推進センター」を設置し、大学の知識・人材を活用した「地域連携・貢献」「研究推進」「生涯学習」の各事業を一体的に行うことにより、地域の活性化及び人材育成の一翼を担うことで「地域に開かれた大学」の定着を目的とする。

○業務内容

(1) 3部門が行う事業への助言・管理・運営補助

①地域連携部門

- ・協定締結機関及び協力機関との事業プランに関する調整及び学内機関とのマッチング
- ・地域連携事業プランに関する進捗状況の把握・管理
- ・その他、地域連携に関する事項

②生涯学習・資格取得支援部門

- ・公開講座・シンポジウム等の企画立案
- ・その他、生涯学習・資格取得支援に関する事項

③研究推進部門

- ・自治体、企業、他大学等との地域連携に関する共同研究の受入窓口及び学内教員とのマッチング
- ・研究紀要の発行
- ・その他、地域連携に関する学内の研究推進に関する事項

(2) 「地域連携推進センター運営委員会」「地域連携協議会」「地域連携推進事業評価委員会」の運営・管理

(3) 協定締結の審議及び締結事務

(4) 「地域貢献・連携事業」報告書（年報を含む）・地域連携推進センター研究紀要の発行

(5) その他、地域連携推進センターの運営に関する事項

○地域連携推進センター運営委員会

委員長：地域連携推進センター所長

副委員長：地域連携推進センター副所長

委員：各学部から学長が推薦する教育職員 各1名

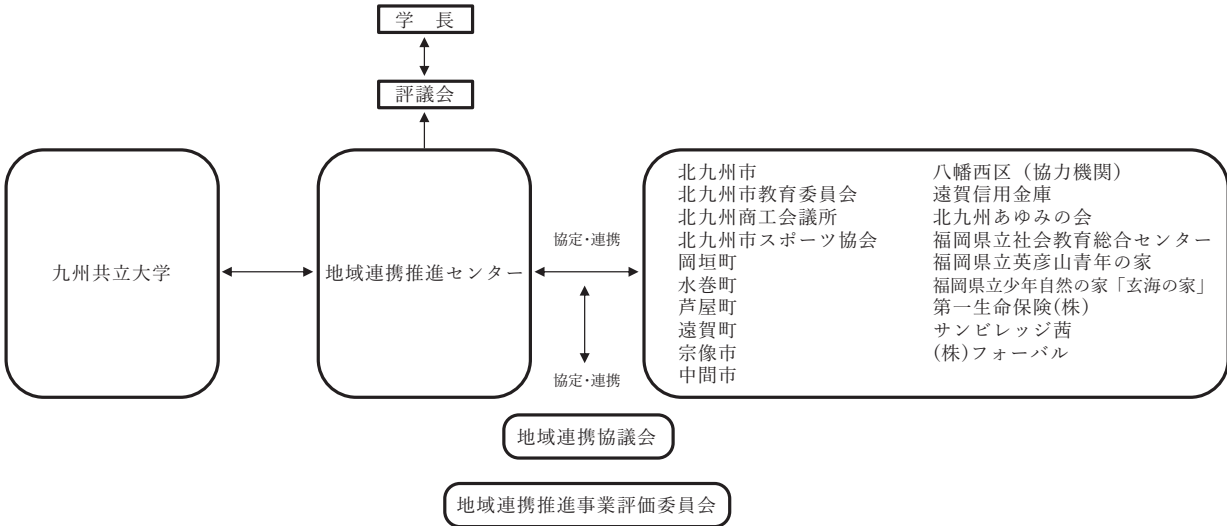
教務課長

キャリア支援課長

その他、学長が必要と認めた職員

事務局：地域連携推進センター職員

○組織図



目 次

《 地域連携・貢献事業 》

【遠賀町】

遠賀川駅前イルミネーション事業
水巻・遠賀地区バスケットボール教室
福岡県植樹祭

【水巻町】

JR東水巻駅周辺地域まちづくり懇話会
水巻町環境出前講座事業

【岡垣町】

住民に「潤い」と「憩い」を提供する「まつり岡垣」
第33回ふれあいスポーツデー 第20回ウォーキング大会・マラソン大会
ふれあいファミリー体力測定会
障がい者クリスマス交流会

【宗像市】

地島プロジェクト
離島（大島地区）の健康づくり事業
大島学Ⅱの構築

【北九州市】

子ども食堂プロジェクト
地域防災人材育成プログラム
北九州市折尾まちづくり記念館 特別展示

【八幡西区】

第22回堀川いっせい清掃

【福岡県立社会教育総合センター】

ゆずフェスティバル
第40回中国・四国・九州地区 生涯教育実践研究交流会

【福岡県立英彦山青年の家】

ひこさんジュニアキャンプ（スポーツ社会教育実習）

【その他】

大学スポーツ資源を活用した地域振興モデル創出支援事業（スポーツ庁委託事業）
第34回全国ふうせんバレーボール大会
小学生のためのレベルアップ短期水泳教室

《 研究推進事業 》

宗像市「大学生の力によるまちの課題解決プロジェクト」（経済学部後藤准教授）
宗像市「大学生の力によるまちの課題解決プロジェクト」（経済学部木村講師）
宗像市「大学生の力によるまちの課題解決プロジェクト」（スポーツ学部山田教授）
宗像市「大学生の力によるまちの課題解決プロジェクト」（スポーツ学部松崎講師）

《 生涯学習事業 》

2023年度【前期・後期】公開講座・市民カレッジ実績報告

《 令和5年度地域連携協定を締結した自治体・団体 》

株式会社フォーバル（2023.7.19 締結）
中間市（2023.7.21 締結）

年 度	2023 年度	
事業プラン名	遠賀川駅前イルミネーション事業	
九州共立大学	担当者	黒田 伸太郎
	所 属	経済学部 地域創造学科
連携機関	機関名	遠賀町商工会
	責任者	経営指導員 辻本 泰一 氏
事業実施日・回数	2023 年 1 1 月 1 0 日	
実施場所	九州共立大学・遠賀川駅前広場・おんが未来テラス	
事業対象者 参加人数	九州共立大学 経済学部 学生 19 名	
経 費	遠賀町商工会	
事業プランの目的・ 内容等及び実績と 効果	<p>1. 事業プランの目的・内容等 本事業では、遠賀町商工会との連携により、駅前活性化に資するイルミネーションの設置作業を協働で実施した。同イルミネーション事業は長年町及び商工会で行われているが、若者との協働によって新たな展開を希望する商工会とともに、まちの活性化につながるようなイルミネーションのアイデアを出して実際に設置を行った。</p> <p>2. 実績 当日はあいにくの雨であったが、商工会会員の商店主ら 10 名と本学の 2 年生 7 名、1 年生 15 名の 22 名で、駅前広場や商店街の店頭でイルミネーションを取り付けた。駅前広場南口では、学生のアイデアで「ONGA」の文字を作成し改札口からも視認できるよう設置を行った。</p> <p>3. 効果 商工会は商工業者の経済活性化を前提とした団体であるが、同時にまちの賑わい創出にも大きな課題感を持っていた。今回は本学学生が商工会のイルミネーション事業へ協力するという形式で設置作業を共に行うことになったが、商工会からは、若い学生のアイデアや行動力に十分な手ごたえを感じていた。 また、学生にとっても、身近な地域の課題に触れ、課題をイメージとして具現化し、実際に身体的協力によって表現する、さらに社会人とのコミュニケーションを図ることで自らの働く姿を想像することといった効果があった。 このような協働が、地域と学生の双方にとって価値ある実践になることは、地域活性化とともに大学の地域貢献という意味でも重要な事であると思われる。</p>	
学生の声	<ul style="list-style-type: none"> ・イルミネーションの設置では年配の方に色々町のことも教えてもらいながらの作業で楽しかった。 ・その場でONGAという文字を作ることになったが、商工会の方は喜んで受け入れてくれた。 	

今後の改善内容
及び展開

実習の一環として遠賀町商工会と事前に打合せの上、イルミネーション設置を行った。住民とのコミュニケーションや商工業の実態を見るという点で、本学科のDPにある「地域社会の振興と発展に寄与できる実践力を備えた人材を養成」に寄与できたと考える。

ただし、商工会からは年度当初に連携事業の話をいただいたため、実際には設置作業のみという限られた連携となった。そのため、今後は事前に打ち合わせを重ね、時間をかけて同事業に関与できれば、学生の学習効果も高まると考えられる。



年 度	2023 年度	
事業プラン名	水巻・遠賀地区バスケットボール教室	
九州共立大学	担当者	川面 剛
	所 属	スポーツ学部
連携機関	機関名	遠賀町教育委員会 生涯学習スポーツ文化係
	責任者	スポーツ文化係長 向井 氏
事業実施日・回数	2024 年 1 月 28 日(日)9 時 00 分～11 時 00 分 1 回のみ	
実施場所	浅木小学校体育館	
事業対象者 参加人数	小学 6 年生以下バスケットボール参加者 17 名	
経 費	なし	
事業プランの目的・ 内容等及び実績と 効果	<p>1. 事業プランの目的・内容等 水巻・遠賀地区の参加者を対象にバスケットボール教室を実施した。参加者は、幼児から小学6年生でバスケットボール未経験者が多く、バスケットボールのボールを扱う楽しさ、相手の駆け引きなどの練習内容を実施し、スポーツをする楽しさや仲間を大切にすることを目的とした。</p> <p>2. 実績 参加者は、小学6年生以下 17 名の地域の方々に参加をした。</p> <p>3. 効果 最初は、バスケットボール指導というよりも鬼ごっこなどを入れて、楽しく身体を動かし、徐々にバスケットボール要素を入れながら実技を実施した。最後の質問コーナーでは、多くの方々挙手をして、大変意欲的な姿勢が見られた。</p>	
学生の声	<p>普段、関わることがない小学生と触れ合い、良い刺激をもらった。また、指導する際に、説明する内容を分かりやすくするために子ども達が聞く環境を整えてから説明する必要があると反省をしていた。</p>	
今後の改善内容 及び展開	<p>今後も水巻・遠賀地区の方々との連携を取り、運動する楽しさ、スポーツ活動を通じて社会づくりに貢献していきたいと考えている。</p>	

年 度	2023 年度	
事業プラン名	福岡県植樹祭	
九州共立大学	担当者	黒田 伸太郎
	所 属	経済学部 地域創造学科
連携機関	機関名	遠賀町役場
	責任者	遠賀町 産業振興課 係長 濱田美孝 氏
事業実施日・回数	2023 年9月～11月 《 全5回 》	
実施場所	遠賀町役場・JR 遠賀川駅・本学	
事業対象者 参加人数	遠賀町民ほか 経済学部学生 28名	
経 費	遠賀町	
事業プランの目的・ 内容等及び実績と 効果	<p>1. 事業プランの目的・内容等</p> <p>福岡県植樹祭が開催され、学生が運営スタッフとして参加した。去る2023年11月11日、「自然という 大きな命を みんなで繋ごう」を大会テーマに「第74回福岡県植樹祭」が遠賀町で開催された。服部知事も来町し、県土保全や土砂災害防止といった森林の果たす重要な機能について触れ、「この森林を、『県民共有の財産』としてこれからも守り、育み、そして次世代へと引き継いでいかなければならない。この植樹祭が、県民の皆さまに、緑豊かな森を次世代に引き継いでいくための取り組みとしてご理解をいただき、そしてこの取り組みの輪が一層広がっていく契機となることを期待します」とあいさつした。</p> <p>式典では、福岡県の緑化推進、森林の保全管理に大きく貢献された人を表彰する「緑化功労者表彰」や県産材の需要拡大のモデルとなる優れた建築物を表彰する「福岡県木造・木質化建築賞表彰」、広渡小学校の児童による「みどりの誓い」などが行われた。</p> <p>2. 実績</p> <p>9月から11月にかけて、遠賀町の歴史や町の抱える課題について事前に学習した。遠賀町産業振興課からは、町の特産品に係る苦労話や駅前の宅地造成等興味深い話をしていただいた。</p> <p>11月11日、福岡県植樹祭の運営スタッフとして役場職員とともに、学生は様々な業務を担い、植樹祭の成功に寄与した。</p> <p>3. 効果</p> <p>74回を数える植樹祭に運営スタッフとして参加した。これは単なるイベントではなく、県の緑化推進とともに、緑化に関与した様々な個人団体の表彰を伴う重要な式典である。</p> <p>学生が参加したのは県職員や町職員とともに完全に裏方の仕事であったが、そこでは、学生が普段目にしない細かな準備や入念な下調べ等の仕事を直接見る機会を得ている。</p> <p>地域創造学科は地域社会の課題を自分の眼で見て学ぶ機会が多い。こうした公的な場に参加する事で、地域課題は自治体によってかなりの部分が整理されているという経験ができた。その意味で、大変貴重な学びの機会となった。</p> <p>また、本学科の学生は、運勢スタッフとして町職員に高く評価された。公に評価されることは、学生にとっても学習のモチベーション向上につながると思われる。</p>	

<p>学生の声</p>	<p>「短い時間のイベントにかなりの時間をかけて準備されていることに驚いた」 「知事や町長、議会の議員さんといったあまり見た事がない人達を見て、こういうところで行政が動いているのだ、と感じた」 「イベントを学生みんなですムーズに進めることができた」</p>
<p>今後の改善内容及び展開</p>	<p>1日だけの式典参加であったが、町職員による事前説明もあり、当日は滞りなくスタッフとして学生が動くことができた。上記の実績・効果にも記載したように、行政からは本学学生の動きに高い評価をいただいた。 実際にきびきびと動く姿は教員が思っていた以上のものであり、身体を動かすことで地域貢献になるという経験は学生にとって貴重かつ有意義なものであったようである。 なお、式典という極めてショートなイベントであったがゆえに、植樹祭自体の意義についての理解はあまり深まらなかったようである。今後同じようなイベントに参加する際は、その目的を学生とともに共有し、何のために実践しているのかを学生が理解できる意味付けの時間を設ける必要がある。</p>



年 度	2023 年度	
事業プラン名	JR東水巻駅周辺地域まちづくり懇話会	
九州共立大学	担当者	森江 由美子
	所 属	経済学部 経済・経営学科
連携機関	機関名	水巻町
	責任者	建設課 都市計画係
事業実施日・回数	2023 年【1/28、3/25】6/3、9/2 計 4 回（なお、2023 年度は 2 回）	
実施場所	水巻町役場	
事業対象者 参加人数	経済・経営学科科目ワークショップ C（ステ・公）履修者 22 名	
経 費	水巻町	
事業プランの目的・ 内容等及び実績と 効果	<p>1. 事業プランの目的・内容等</p> <p>水巻町においては、JR 東水巻駅周辺を中心とした水巻町南部地域のまちづくり構想を検討中である。本町も人口減少・少子高齢化が進行しているため、対応策として「元気で魅力的なまちづくり」が喫緊の課題である。その中で、「町外居住者」「大学生（若年世代/学生）」としての意見を聴取し、まちづくり構想検討の参考とすることを目的に、JR 東水巻駅周辺等整備基本構想の検討に向けたワークショップ【in九州共立大学】（2022 年実施）及び JR 東水巻駅周辺地域まちづくり懇話会（全 4 回）が開催され、当該連携事業に本学経済学部経済・経営学科の授業科目であるワークショップ C（ステ・公）の履修者 22 名が参加した。</p> <p>2. 実績</p> <p>第 1 回「水巻南部地域の現状を考えよう！」においては、今後のまちづくりに活かそうな「魅力・良いところ」と、改善が必要な「問題点・困っているところ」について、学生の立場・視点から自由な意見を出し、住民との共有を行った。</p> <p>第 2 回「水巻南部地域の魅力や問題点を探しに行こう！」においては、雨天のためストリートビューを使用し、東水巻駅周辺エリアの現地状況を確認しながら、魅力と問題点の再整理を行った。</p> <p>第 3 回「水巻町南部地域のまちづくりを考えよう！」においては、これまでに整理した魅力と問題点を踏まえて、目指すまちのイメージやそのために必要なこと・ものなど、具体的なまちづくりのアイデアを出し合い、「拠点エリア」と「周辺エリア」ごとに整理を行った。</p> <p>第 4 回「水巻南部地域の魅力を伝えよう！」においては、第 3 回で出されたまちづくりのアイデアをベースに、特に実施主体と具体的な取り組み内容について検討を行った。また、必要な情報発信についても意見を出し合った。</p> <p>3. 効果</p> <p>まちづくり懇話会の意見を踏まえ、「JR 東水巻駅周辺等整備基本構想」が策定され、2024 年 4 月 25 日に公表された。各自治体、若年層の流出に関する対策は喫緊の課題であるため、水巻町においても、参加学生の意見を真摯に検討し基本構想に反映されている。若者も魅力的だと感じるまちづくりに、本学の学生たちが一翼を担うことができたと考える。</p> <p>また、参加学生は全員公務員志望者であるため、将来自分たちが希望する行政職の職務内容や、職員の方々の仕事に対する姿勢等について、この連携事業を通して理解が深まったと感じられる。</p>	

<p>学生の声</p>	<p>懇話会で分かったことは、水巻町は魅力にあふれていて、まだまだ発展の伸び代があるということです。町民の方々と話してみると、医療・福祉の面や生活面（買い物など）が充実しており、過ごしやすいという意見が多かったです。そうした地域の現状を知ることで、発展材料を探るための手掛かりになりそうだと強く感じました。</p> <p>懇話会で得た課題は、主体性を持って行動することです。初参加で若干緊張したということもありましたが、何度か町役場の職員の方々、同じグループに所属している住民の方々に助けられた場面がありました。今後は、初参加であることなどを言い訳とせず、しっかり自分の意見を周囲に伝える力を養いたいと思いました。</p>
<p>今後の改善内容及び展開</p>	<p>当連携事業は、一応、2023年度で終了を迎えたが、2026年度よりJR東水巻駅周辺等整備に着工予定であるため、引き続き、水巻町のまちづくりに関心を持ち、学生（若者）視点から、随時実地調査および検討を行ってきたい。</p>

ワークショップニュース

元気で魅力的なまちを考える/ JR東水巻駅周辺地域まちづくり懇話会

東水巻駅周辺を中心とした水巻町南部地域のまちづくりを考えるため、ワークショップ形式の懇話会を令和5年1月～9月の間に全4回開催しました。住民の皆さまに加え、九州共立大学と九州国際大学の学生にもご参加いただき、各回とも20名を超える皆さまと一緒に水巻町南部地域のまちづくりについて意見交換を行いました。


九州共立大学経済学部「応用経営ゼミ学生」、九州国際大学観光ビジネス学部「小郡専攻経営ゼミ学生」

懇話会の全体テーマ

人口減少・少子高齢化が懸念されるなかで、どのような魅力的なまちをつくっていくか？


第1回 水巻南部地域の現状を考えよう！ 令和5年1月28日(土)

南部地域において、今後のまちづくりに活かせるような「魅力・良いところ」と、今後のまちづくりのために改善が必要な「課題点・困っているところ」について、それぞれの立場、観点から自由な意見を話し合い、共有しました。



第2回 水巻南部地域の魅力や課題点を探しに行こう！ 令和5年3月25日(土)

あいくの次役のため、まち歩きは中止。ストリートビューを使って東水巻駅周辺エリアの現状を把握しながら、魅力と課題点を再整理しました。また、これまでにあった魅力・課題点の中から、特に重要視する項目の選定・共有を行いました。



▶▶ 南部地域の魅力と課題点は？


魅力トップ3【全29項目中】	課題点ワースト3【全58項目中】
1位 医療サービスが充実 (15票未満で医師免許持等) 17票	1位 街灯が不足、暗い 12票
2位 生活利便性が高い(町がコンパクト、買い物しやすい等) 13票	2位 都市施設、生活利便施設が不足(銀行、本屋、複合商業施設等) 10票
3位 恵まれた自然環境 8票	3位 学生・若者の活躍が少ない 8票

その他：良好なコミュニティ・地域の見守りが豊富/イベントによる地域活性化 など

その他：魅力・シンボル性が不足/東水巻駅の機能が不足(対面場がない、無人等) など


▶▶ 基本構想策定の流れ

今回のまちづくり懇話会のご意見のほか、住民アンケート調査結果、関係機関へのヒアリング調査結果等を踏まえて、東水巻駅周辺を中心とした水巻町南部地域のまちづくり構想を検討しています。今後、「JR東水巻駅周辺等整備基本構想策定委員会」にて「基本構想案」をとりまとめ、パブリックコメントの実施、町長への答申を予定しています。




第3回 水巻南部地域のまちづくりを考えよう！ 令和5年6月3日(土)

これまでに整理した南部地域の「魅力・良いところ」「課題点・困っているところ」を踏まえて、目指すまちのイメージやそのために必要なこと・ものなど、具体のまちづくりのアイデアを出し合い、「総合エリア」と「周辺エリア」ごとに整理しました。




第4回 水巻南部地域の魅力を伝えよう！ 令和5年9月2日(土)

第3回で出たまちづくりのアイデアをベースに、特に「実施主体（誰が）」と「具体の取組内容（何を）」について掘り下げを行いました。また、必要な情報発信について意見を出し合いました。



▶▶ 目指すまちのイメージや求める施設・役割は？

東水巻駅の交通拠点としての機能強化 交通結節機能、ロープウェイ、駐車場 など	シンボル、オリジナリティの創出 東水巻のシンボル、魅力、地域魂との差別化 など	賑わい・拠点性の創出 人が集まる、交流、拠点性・拠点開発、商業 など
地域の活性化 イベント、若年世代・学生、情報発信 など	安心して生活できる 安全性、高齢・子育て、防災、防災 など	居住環境の充実 生活利便性、定住、子育て など

みなさまのご協力ありがとうございました。発行：水巻町建設課 都市計画係 担当：吉田 

「JR 東水巻駅周辺等整備基本構想」

URL: <https://www.town.mizumaki.lg.jp/s028/gyosei/080/230/20240326112202.html>

- 7 -

年 度	2023 年度	
事業プラン名	水巻町環境出前講座事業	
九州共立大学	担当者	森江 由美子
	所 属	経済学部 経済・経営学科
連携機関	機関名	水巻町
	責任者	産業環境課 環境係
事業実施日・回数	2023 年 5/26、7/5、9/15、10/21・22 計 5 回	
実施場所	伊左座小学校、吉田小学校、杵小学校、みどりんぱあーく（コスモス祭り）	
事業対象者 参加人数	経済・経営学科科目ワークショップ B（ステ・公）履修者 46 名（延べ）	
経 費	水巻町	
事業プランの目的・ 内容等及び実績と 効果	<p>1. 事業プランの目的・内容等</p> <p>当事業は、水巻町内の小学校 3 校、伊左座小学校、吉田小学校、杵小学校に対して、水巻町地球温暖化防止活動推進員の実施する環境出前講座を、本学経済学部経済・経営学科の授業科目であるワークショップ B（ステ・公）を履修する学生が運営サポートすることにより、子どもたちが環境問題について楽しく学び、さらなる理解促進に繋げることを目的とする。</p> <p>また、水巻町コスモス祭り環境教育ブースにおいても、運営サポートを行ったが、これは、来場者に環境問題に関する知識を身に付けてもらうことを目的とする取り組みである。</p> <p>2. 実績</p> <p>出前講座は、子どもたちに、地域のゴミ問題、食品ロス問題を学んでもらい、家庭ゴミ（サンプル）の分別およびバッカー車への投入を体験してもらうが、本学の学生は、食品ロス問題の講師と分別体験のサポートを担当した。コスモス祭り環境教育ブースにおいては、「気候変動クイズ」のパネルを使い、来場者にはクイズに挑戦していただき、推進員や応援スタッフ（本学学生）と答え合わせをした後、エコファミリーについて説明を行うことにより、環境問題に関する知識を身に付けてもらった。</p> <p>3. 効果</p> <p>出前講座においては、水巻町地球温暖化防止活動推進員の方に代わり、食品ロス問題の講師を本学学生が担当させていただいたが、説明にクイズ形式を取り入れる等工夫を凝らしたことにより、子どもたちがより環境問題に興味を持ち、学んだことを直ぐに実践したいと約束してくれたとの報告を産業環境課より受けた。</p> <p>また、コスモス祭り環境教育ブースにおいては、来場者の環境問題への理解を深めることに貢献することができたと考える。</p> <p>なお、参加学生は全員公務員志望者であるため、将来自分たちが希望する行政職の職務内容や、職員の方々の仕事に対する姿勢等について、この連携事業を通して理解が深まったと感じられる。</p>	
学生の声	<p>私は、環境出前講座に 2 回参加しました。初回は、水巻町のキャラクターである「みずまる」の補助役を担当し、2 回目は、ゴミの分別体験をサポートしました。初回は、直接子どもたちと関わる機会がありませんでしたが、他のメンバーがゴミの分別を教えている場面を俯瞰的に見ることができ、スムーズにできているグループと苦戦しているところと様々であることが分かりました。その要因として、大学生 1 人で小学生 6、7 人を同時にサポート</p>	

	<p>しなければならなかったことが挙げられます。2 回目の講座では、1 グループに対し大学生が 2 人でサポートしたため、余裕をもって指導することができたと思います。</p> <p>また、子どもたちからクイズがとても楽しかったと聞くことができたので、クイズの時間を増やすことで、さらに子どもたちの環境問題への理解が深まるのではないかと思います。</p>
<p>今後の改善内容及び展開</p>	<p>2024 年度においても水巻町環境出前講座事業は継続されるため、引き続きワークショップ B（ステ・公）の履修者を各小学校に派遣し、子どもたちの環境問題へのさらなる理解に繋げていきたい。</p> <p>また、この事業を通して、行政職志望の学生の職業観も養っていきたい。</p>



年 度	2023 年度	
事業プラン名	住民に「潤い」と「憩い」の場を提供する「まつり岡垣」	
九州共立大学	担当者	黒田 伸太郎
	所 属	経済学部 地域創造学科
連携機関	機関名	岡垣町
	責任者	おかがき PR 課 課長 有働 貴幸 氏
事業実施日・回数	2023 年5月～11月 《 全 11 回 》	
実施場所	岡垣町役場・本学	
事業対象者 参加人数	岡垣町民 経済学部学生 6名	
経 費	岡垣町	
事業プランの目的・ 内容等及び実績と 効果	<p>1. 事業プランの目的・内容等 住民が主体的に参加し交流する機会をつくることや、地域振興に対する意識の高揚、町民一人ひとりの融和を図ることを目的に岡垣町が実施している「まつり岡垣」は、例年約2万人の来場がある町最大のイベントである。この「まつり岡垣」の運営スタッフとして本学学生が参加し、地域住民と一体となったイベントに取り組んでもらうことによって、様々な職種や団体の住民とふれあい、地域課題について学ぶことを目的とする。</p> <p>2. 実績 5月から11月までの期間に開催された11回の実行委員会への出席並びに「まつり岡垣」当日に参加した。岡垣町おかがきPR課との事前の打ち合わせでは、学生に企画内容の提案もお願いしたいとの事であったが、参加学生の授業との兼ね合いで実質的には前日準備と当日の参加にとどまった。しかし、まつり当日は、役場や観光協会とのスムーズな連携によって祭りの成功に大きく貢献した。 祭りの後は学生に振り返りをさせ、参加した感想だけでなく、祭りの改善点も提案するなど、役場に対するフィードバックも行うことができた。こうした実践と学習の往還により、地域に対する学びを深めることができた。</p> <p>3. 効果 地域社会を学ぶ上で、実際に当事者が活動する場へ参加する意味は大きい。本連携事業では、町役場職員や観光協会、地域住民、祭りの来場者等多くのステークホルダーと接点を持つことができ、祭りという場を通じて地域社会の一面を知ることができた。 祭りは単なるイベントではなく、地域の歴史や風土に彩られた一大行事である。地域住民の思い入れもあり、特に実行委員会のメンバーは祭りの持つ影響力に期待を寄せていた。学生もこうした地域に根差した活動に参加することで、祭りの持つ意味を多面的に理解できた。 地域創造学科の学生は実習を通じて地域社会の課題や改善策について学習する機会が多い。しかし、単に地域社会に出向くだけでなく、地域社会の現状と課題を肌で感じ、人々の話を傾聴し、自ら考え、行動できる人材へと変容するような仕掛けづくりが重要であると再認識した。 本連携事業は、このような意味で学生の成長に大いに寄与するものであった。</p>	

<p>学生の声</p>	<p>「まつりに運営者として参加したのは初めてだったが、まつりの雰囲気を楽しめただけでなく、役場の職員の仕事の大変さが少し理解できた。」 「地域住民が多く参加するイベントの重要性に気づいた。」</p>
<p>今後の改善内容及び展開</p>	<p>集中講義であるため、他の授業との調整が難しかった。しかし、役場職員や実行委員の皆さんからは、本学科の取り組みや参加学生に対する評価は高かった。なお、実行委員からは「もっと学生が委員会に参加し、若さならではの意見も聞きたかった」というお声もいただいた。この点は、学生の履修状況を勘案し、積極的に参加していきたい。</p> <p>今後も行政から連携の打診があればなるべく応じていくべきである。連携が積み重なることで、行政の課題解決とともに、本学科の学生が今まで以上に地域で学びたいと思いと高めていくことも期待できる。そのような環境整備が必要になるだろう。</p>



年 度	2023 年度	
事業プラン名	第 33 回ふれあいスポーツデー 第 20 回岡垣ウォーキング大会・マラソン大会	
九州共立大学	担当者	名頭 蘭 亮太、国枝 結花
	所 属	スポーツ学部
連携機関	機関名	岡垣町教育委員会
	責任者	生涯学習課 公民館係 本田氏
事業実施日・回数	2023 年 10 月 9 日 《計 1 回》	
実施場所	岡垣町立内浦小学校 運動場、体育館	
事業対象者 参加人数	ウォーキング・マラソン大会参加者 282 名 スポーツ学部学生 10 名	
経 費	岡垣町・地域連携推進センター	
事業プランの目的・ 内容等及び実績と 効果	<p>1. 事業プランの目的・内容等 第 20 回岡垣ウォーキング大会・マラソン大会の参加者を対象に、「歩く・走るためのコンディショニングチェック測定会」を実施した。ウォーキングやランニングに必要な柔軟性や筋力、足の形態などを測定しフィードバックすることで、今後のスポーツ活動や体力づくりを楽しく健康的に行うための一助とすることを目的とした。また、ウォーキング大会・マラソン大会を安全に取り組むためにイベント中の救護活動にも取り組んだ。</p> <p>2. 実績 「歩く・走るためのコンディショニングチェック測定会」では、体組成や足部形態の評価、体力測定を実施した。体力測定ではオリジナルの得点基準（5段階評価）を作成し、小学生でも体力測定の結果の良し悪しが分かりやすくなるようにした。測定会の参加者数は子ども 91 名、大人 20 名であった。</p> <p>3. 効果 今回実施したコンディショニングチェックの測定では、ウォーキングやランニングのパフォーマンス向上や怪我の予防に特化した測定項目を設けた。具体的には、専用のデバイスを用いたジャンプ力の測定や足趾の筋力測定、反応能力の測定、バランス能力の測定、足部形態の評価を実施した。これらの測定は普段学校で行われている新体力テストとは異なるため、参加者にとって新たな気づきに繋がったのではないかと考える。また、保護者の方からも測定内容について熱心な質問があり、有益な情報を提供できたのではないかと考える。</p>	
学生の声	<p>普段大学で学習している専門的な用語を、小学生や保護者の方、地域の方々に分かりやすく伝えることが難しかった。測定は問題なく行えたが、測定結果を伝えることに苦戦した。様々な世代の方と接することができて貴重だった。といったコミュニケーションに関する意見が多かった。</p>	
今後の改善内容 及び展開	<p>今回初めて「測定会」という形式でイベントを実施したが、今後も同様の形式で実施することで、参加者のスポーツ活動を充実させることに繋がるのではないかと考える。しかしながら、時間と人手がギリギリであったため、測定項目を見直すことや大会プログラムとの調整を実施していく必要がある。「救護活動」についても引き続き継続し、安全なスポーツ活動の場づくりに貢献できればと考えている。</p>	



年 度	2023 年度	
事業プラン名	ふれあいファミリー体力測定会	
九州共立大学	担当者	名頭 蘭 亮太
	所 属	スポーツ学部
連携機関	機関名	岡垣町教育委員会
	責任者	生涯学習課 公民館係 本田氏
事業実施日・回数	2023 年 8 月 20 日 《計 1 回》	
実施場所	岡垣サンリーアイ ウェーブアリーナ	
事業対象者 参加人数	参加者：約 50 名 スポーツ学部学生：7 名	
経 費	岡垣町	
事業プランの目的・ 内容等及び実績と 効果	<p>1. 事業プランの目的・内容等 家族でスポーツに親しむ習慣を身に付けてもらうことを目的とした「ふれあいファミリー体力測定会」に測定補助者として、本学スポーツ学部の学生とともに参加した。受付時の血圧測定の補助や6種目の体力テストのデモンストレーションと測定の補助を行った。また、本学からは歩行分析用のデバイスを用意し測定とフィードバックを行った。</p> <p>2. 実績 全ての参加者の方へ体力テストを怪我等なく実施することができた。さらに、歩行分析の測定も4名の方に実施していただき専用の評価用紙を用いてフィードバックを行うことができた。</p> <p>3. 効果 全ての方が安全に楽しく体力テストに取り組んでおり、体力測定の結果についてフィードバックもあったことから、参加者の方にとって今後のスポーツ習慣を身につける良いきっかけになったと思われる。また、歩行分析に取り組んでいただいた方からは、普段ウォーキングをしているため参考になるといった感想も得られた。また、参加した本学の学生も普段接することが少ない小学生や高齢者の方に測定の説明を行うことで、スポーツ指導における実践力が身についたと思われる。</p>	
学生の声	小学生や高齢者の方など普段関わりが少ない年代の人とコミュニケーションが取れて楽しかった。一方で、年代によって説明の仕方を工夫する必要性について気づけたとする意見が多かった。また、歩行分析に興味を持ってもらえて良かったといった意見もあった。	
今後の改善内容 及び展開	<p>今年度は本学から測定項目の追加を依頼し、歩行分析の測定を実施できる環境を岡垣町の方に手配していただいた。来年度以降も歩行分析をはじめとした、町民の方の健康づくりに貢献できるような測定を提案していきたいと考えている。</p> <p>さらに、今後も岡垣町との連携を深めながら、本事業のような体力測定を実施する機会を増やしていき、楽しく健康的にスポーツ活動を実施できるような社会づくりに貢献したい。</p> <p>また、地域連携事業を通して、実践力のあるスポーツ指導者の育成やスポーツイベントのマネジメントに関わるような人材の育成にも取り組みたい。</p>	



年 度	2023 年度	
事業プラン名	障がい者クリスマス交流会	
九州共立大学	担当者	花田 道子、アダプテッドスポーツ研究部
	所 属	スポーツ学部
連携機関	機関名	岡垣町社会福祉協議会
	責任者	コーディネーター 木村 氏
事業実施日・回数	2023 年 12 月 17 日 (日) 《 全 1 回 》	
実施場所	岡垣町社会福祉協議会「いこいの里」	
事業対象者 参加人数	事業対象者：60 名 参加人数（学生ボランティア）：15 名	
経 費	岡垣町社会福祉協議会・地域連携推進センター	
事業プランの目的・ 内容等及び実績と 効果	<p>1. 事業プランの目的・内容等 障がい者のふれあい交流と社会参加の促進を目的に開催する。</p> <p>2. 実績 「みんなで楽しくレクリエーション」45分間をアダプテッドスポーツ研究部の学生が中心となり提供した。日頃の体操教室の経験を活かし、障がいを持った方たちも一緒に楽しめるプログラムの作成に努めた結果、みなさん積極的に参加して下さり会場が笑顔に包まれた。帰り際に、「楽しかった!」とたくさんの方からお言葉を頂き、学生たちの自信にも繋がったようである。岡垣町社会福祉協議会の方からも来年も是非来て欲しいと要望があった。</p> <p>3. 効果 センター職員と連携・協働してプログラムを効果的に実施するなど、本事業を成功させる原動力になった。</p>	
学生の声	<p>私は岡垣町に 20 年住んでいますが、恥ずかしながらこのイベントが行われていたことを今回初めて知りました。全ての活動が楽しかったのはもちろんですが、岡垣町の支援施設でどのような取り組みが行われているのか、ミニゲームや休憩時間を通して高齢者の方と触れ合い、知ることが出来ました。来年もぜひ参加したいです。今回はこのような素敵な機会を、本当にありがとうございました。</p>	
今後の改善内容 及び展開	<p>今回は行事が重なってしまいタイトな時間スケジュールであったため、到着が開始直前となったため、次回は受付時間前に会場の確認と最終打合せができるように余裕をもって到着したい。学生たちが責任感を持って関わり、貴重な経験をさせて頂いた。今後も学生たちのマンパワーが社会の力となるようにこれからも頑張りたい。</p>	



『ふれあい』をテーマにレクリエーションをしました(^_^)



ふうせんゲーム



サンタさんからのプレゼント



何個つみあげれるかなあ～



年 度	2023 年度	
事業プラン名	地島プロジェクト	
九州共立大学	担当者	山田 明
	所 属	スポーツ学部
連携機関	機関名	宗像市役所
	責任者	
事業実施日・回数	5回（年間）	
実施場所	九州共立大学・地島（宗像市）	
事業対象者 参加人数	事業対象者：（地島住民、関係者、他） 学生参加者：23名（3年）	
経 費	宗像市（地島応援団）	
事業プランの目的・ 内容等及び実績と 効果	<p>1. 事業プランの目的・内容等 過疎化が進む離島である地島（宗像市）の地域活性化を目的に、学生の視点で取り組みを検討し実施する。今年度は、昨年度に引き続き、地島小学校における次世代育成プログラム、地島産サツマイモの製品化およびプロモーション、地島の伝統行事（山笠）への参加などを計画した。</p> <p>2. 実績 地島小学校における次世代育成プログラム、地島産サツマイモ掘り、製品化およびプロモーションに関するアイデア提供、地島の伝統行事である山笠へ参加した。</p> <p>3. 効果 学生が主体となった活動を通して、島民とのふれあい、村おこしという地域活性化に貢献した。島の人口減少、少子高齢化が顕著な離島において、地域課題は山積している。ボランティアとして学生がサポートに入り、課題を共有し、その解決に向けて微力だが一緒に取り組んでいくところに、島民に活力を与える効果があった。学生においても、現実の社会に触れ、机上では学ぶことができない経験をした。かけがえのない学びであったと思われる。</p>	
学生の声	地域の課題解決（地域活性化、まちづくり）の取り組みに関わった経験を得たということが貴重だと認識し、活動そのものにも充実感をもったようである。学生の意見として、「地島にわたり地域の方や子どもたちとの交流を重ねたことで、地島の魅力は景色や環境だけではないと思いました。また、山笠や芋ほりという地域に貢献できたことが最もよかったと思いました。」があった。	
今後の改善内容 及び展開	次年度も継続して、取り組んでいきたい。地島小学校における次世代育成プログラム、山笠への参加を計画したい。特に、島の産業を興すという意味でサツマイモの製品化およびプロモーションに関するアイデアを少しでも実現できるような活動を計画する。	

地島山笠 海渡った

7/8 読 朝 宗



波しぶきを上げながら、洋上を進む地島山笠

博多祇園山笠のクライマックス「追い山笠」が行われた15日、宗像市沖の地島では、地島山笠が4年ぶりに海を渡った。住民の減少や高齢化に直面する島に、本土の大学生やほかの地域の山笠のメンバーらが駆け付け、伝統の神事を支えた。
(大塚晴司)

島の人たちなどによると、地島山笠は太平洋戦争中に途絶えたが、1971年に復活したという。島の南と中央にそれぞれ位置する泊、豊岡の二つの集落が

コロナ越え4年ぶり

高齢化、島外の学生ら支援

交互に当番を務め、製作した山笠を漁船に乗せ、洋上を航行しても一方の集落へ運ぶのが習わしとなっていた。今年、豊岡の牧神社を出発。集落を巡った後、総重量約600kgの山笠を総出で漁船へ押し上げ、30分ほどかけて泊の港へ運んだ。泊でも集落内を歩く予定だったが、今日10日の記録的な大雨で自宅が被害を受け、避難を余儀なくされ、同大3年井手口玲也さん(20)は「島の人との関わりが新鮮で楽しい。消防士になって、この経験をいかしたい」と話した。

市によると、最盛期の55年には559人の島民がいたが、6月末時点で133人。島外の施設や病院にいる人も多く、実数はさらに少ない。九州共立大(北九州市八幡西区)の学生や本土の田熊山笠、島でかつて盛んだったサツマイモ栽培の復活に挑んでいる地島応援団のメンバーらが島に渡り、山笠を昇くなどして祭りを盛り上げた。

豊岡で班長を務める漁師の吉田稔さん(64)は「一年を定めたが、今日10日の記録的な大雨で自宅が被害を受け、避難を余儀なくされ」と感謝し、同大3年井手口玲也さん(20)は「島の人との関わりが新鮮で楽しい。消防士になって、この経験をいかしたい」と話した。

上須恵祇園山笠

追い山23日実施へ



人形が飾り付けられた上須恵祇園山笠

4月に町制施行70周年を迎えた須恵町でも、約250年の歴史があるとされる上須恵祇園山笠で4年ぶりの追い山が行われる。

上須恵祇園山笠には、江戸時代に疫病退散の祈願で始まったという説と、黒田藩の御典医で日本四大眼科に数えられた田原養全が提唱して始めたという説があるという。コロナ禍で2020年は見送り、21、22年は飾り山と神事だけを行った。

島騒動を題材にした人形の飾り付けを行った。追い山は23日午前9時に同町上須恵の須賀神社前を出発する。同日までの午後8時頃〜同10時に同所で、飾り山をライトアップする。

上須恵文化財保存会の村山文弥会長は「3年もできないと、忘れていたことがあったり、山笠への参加意欲が薄れているように感じたりすることもある。祭りは地域にとって、集まって顔を合わせる大事な機会になる」と話している。

年 度	2023 年度	
事業プラン名	離島（大島地区）の健康づくり事業	
九州共立大学	担当者	花田 道子
	所 属	スポーツ学部
連携機関	機関名	宗像市役所 健康福祉部健康課
	責任者	健康サポート係長 山本 氏
事業実施日・回数	2024 年 1 月 28 日（日）《 全 1 回 》	
実施場所	大島福祉センター「ふれ愛センター」	
事業対象者 参加人数	参加者：20 人 学生ボランティア：7 名	
経 費	宗像市役所	
事業プランの目的・ 内容等及び実績と 効果	<p>1. 事業プランの目的・内容等 「健康測定とレクリエーション」を今年度も「みんなで楽しく体を動かすこと」を目的にプログラムを提供した。また、大島で毎日実施されている「ラジオ体操」について「運動面の効果」をお伝えした後、実際に学生たちが説明しながら一緒に実践した。</p> <p>2. 実績 運動による健康づくりの指導やレクリエーション要素を含んだ体づくりを行った。また、島民が持ち帰って自宅でも行えるような運動（筋トレなど）の伝達やラジオ体操について、解説を交えながら一緒に行った。測定（InBody、握力、30 秒立ち座り、開眼片足立ち）と測定後の説明を行った。</p> <p>3. 効果 とても和やかな雰囲気の中で実施することができ、大島島民の方たちへの健康づくり・生きがいづくりに貢献することができた。また、宗像市役所健康福祉部健康課との連携が促進された。</p>	
学生の声	<p>私はラジオ体操の素晴らしさに改めて気づきました。皆さん心身ともにとってもお元気で、その根底には毎日のラジオ体操があると仰っていました。ラジオ体操はシンプルであり奥が深く、体だけでなく心や脳機能の持続にも大きな役割があるということに気づきました。しっかりとポイントを抑え、目に見える効果だけでなくその他に繋がる多くのことを教えることの出来る教師を目指したいなと思いました。（スポーツ学部 3 年 小宮雅史）</p>	
今後の改善内容 及び展開	<p>今後も、宗像市役所健康福祉部健康課との連携を深めながら、宗像市の高齢者の生きがい、健康、ふれあい、社会参加の促進に貢献したい。</p>	

島民のみなさまへ

今年も
開催!!

健康測定&レクリエーション

～みんなで楽しく体を動かそう～

令和6年1月28日(日)

9:45～(12:00終了予定)

ふれあいセンターにて

※動きやすい服装でおこしください※



九州共立大学
スポーツ学部の
方々に
ラジオ体操講座を
行きます!!



ポッチャは
誰でも
楽しめる
ですよ!!

どなたでも参加 OK!!

○健康測定
握力 Inbody測定
30秒立ち座り
閉眼片足立ち



○健康講話
～感染症について～

○レクリエーション
ラジオ体操講座
椅子に座ってできる運動
ポッチャ

お誘いあわせのうえ多数おこしください

主催：大島地区コミュニティ運営協議会

共催：九州共立大学 / 福岡県宗像・遠賀保健福祉環境事務所 / 宗像市健康課



私は今回初めてラジオ体操の指導を担当しました。ラジオ体操は全員に馴染みがありましたが、一つ一つの動きに対してポイントを意識して行くと、普段のラジオ体操よりも運動量が上がりました。終わった後には少し汗が滲んでいました。初めて会う方々に運動指導を行うのは緊張しましたが、とても良い経験になりました。

スポーツ学部3年 堀 愛音



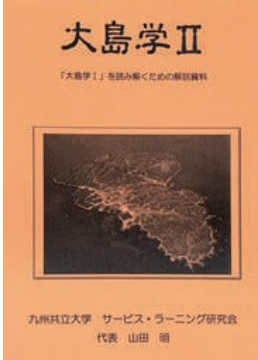
レクリエーション



ラジオ体操





ポッチャ

年 度	2023 年度	
事業プラン名	大島学Ⅱの構築	
九州共立大学	担当者	山田 明
	所 属	スポーツ学部
連携機関	機関名	宗像市役所
	責任者	
事業実施日・回数	10回（年間）	
実施場所	九州共立大学・宗像市	
事業対象者 参加人数	学生 12 名（3 年）	
経 費	学内個人研究費	
事業プランの目的・ 内容等及び実績と 効果	<p>1. 事業プランの目的・内容等 宗像市大島の豊かな歴史遺産と大学の知、学生の学びを協働させ、市民のシビック・プライドを喚起する活動を通し、まちの課題解決（魅力再発見）に寄与する。</p> <p>2. 実績 本学と宗像市との地域連携事業の一環として「大島学Ⅱ」作成した。学生ボランティアが、大島が所蔵する資料や文献をもとに冊子として編集した。</p> <p>3. 効果 地名の由来や歴史・民話などコンパクトに取り上げられている大変貴重な資料として、大島の島民だけでなく宗像市内外の人に活用されている。宗像市においては、市外への広報としても活用している。学生ボランティアは、地域の魅力再発見に関わったことにより地域社会への意識の向上、課題解決への処方を学んだ。</p>	
学生の声	地域活性化をテーマとする本活動に参加したが学生は、活動のプロセスで地域を知ること、地域の魅力は再発見できること、その成果を広く地域住民に伝えることが地域課題の解決につながることを学んだようである。	
今後の改善内容 及び展開	<p>大島学で作成した冊子や動画を活用して、ボランティア学生による講演も企画したい。その際には、大島に関心を持つ多くの人に参加でき、地域の歴史をはじめ地域の魅力を感じられるようなシンポジウム形式を検討している。</p>	
		

年 度	2023 年度	
事業プラン名	子ども食堂プロジェクト	
九州共立大学	担当者	甘 長青（ちょボラ部部長）
	所 属	経済学部
連携機関	機関名	北九州市役所子育て支援課、元気食堂、たけごはん、子ども食堂ひだまり、子ども食堂～居場所
	責任者	元気食堂（北九州市社会福祉協議会 四宮 嵩世氏） たけごはん（Community Family Team LUCE 兼野 明子氏）等
事業実施日・回数	2023 年 4 月～2024 年 3 月 《 全 24 回 》	
実施場所	筒井市民センター他	
事業対象者 参加人数	事業対象者：子ども食堂参加の小学生 参加学生数：九州共立大学 のべ 101 人	
経 費	なし	
事業プランの目的・ 内容等及び実績と 効果	<p>1. 事業プランの目的・内容等</p> <p>子ども食堂とは、地域の大人が子どもに無料または低額で食事を提供する取り組みであり、北九州市内の子ども食堂では、孤食の防止や地域の子どもと大人がコミュニケーションを図りながら安心して過ごすことのできる子どもの居場所として実施している。活動内容としては、一緒に食事をするだけでなく、宿題等の学習指導や遊びなど、保護者がお迎えに来るまでの時間を有意義に過ごせるよう、子どもの居場所づくりに努めている。</p> <p>2. 実績</p> <p>北九州市内で開催されている 4 カ所の子ども食堂に定期的に参加し、それぞれの主催する地域の方々とともに、子どもたちの居場所づくりに取り組んだ。令和 5 年度の 1 年間で、これらの子ども食堂は、合計 24 回開催され、のべ 101 名の大学生がボランティアとして参加した。継続的に参加することで、これまで気づかなかった子どもたちの様子などを感じ取ることができ、大人と子どもの架け橋となることができたのではないかと考える。</p> <p>3. 効果</p> <p>学校の先生と親以外の大人とふれあう機会も少ない今の子どもたちにとって、大学生の存在は、珍しく、楽しい場づくりができたのではないかと思う。子どもたちが主体となって活動することが多く、毎回子どもたちの成長が感じられることが多くなった。</p>	
学生の声	回数を重ねるごとに、より良好な関係性を築くことができた。また、子どもたちが友達を誘ったりと、子どもたちの人数も一気に増え、活気あふれる活動となっている。	
今後の改善内容 及び展開	参加人数は、令和 4 年度はのべ 36 名からのべ 101 名と大幅に増加し、活発に活動することができた。現在、子ども食堂は「子どものため」から全世代型の地域交流拠点へ変わりつつある。そのためには、さらに多くの大学生に子ども食堂を知ってもらふ必要がある。	



年 度	2023 年度	
事業プラン名	地域防災人材育成プログラム	
九州共立大学	担当者	所長 山田 明
	所 属	地域連携推進センター
連携機関	機関名	北九州市 危機管理室
	責任者	防災企画係長 中村 氏、地域防災担当係長 坂本 氏
事業実施日・回数	2023年9月26日（火）	
実施場所	九州共立大学自由ヶ丘会館 J304 教室	
事業対象者 参加人数	本学学生・職員 約 50 人 自治体関係者・地域住民 8 人	
経 費	地域連携推進センター	
事業プランの目的・ 内容等及び実績と 効果	<p>1. 事業プランの目的・内容等 近年、豪雨災害など、これまでの常識を超える災害が毎年のように発生しており、このような社会背景のもと、防災情報の入手や避難のタイミング等の具体的な防災対策の普及が必要とされている。また、日常にあたっては災害の備えを通じ、自分自身や他者の命を守ることも喫緊の課題となっている。これら社会背景や課題に向き合うため、地域社会の防災に資する人材の育成を目的として、地域防災人材育成プログラム（講演会）を実施するものである。</p> <p>2. 実績 プログラムにおいては、「地域・家庭の防災力向上を目指して」と題し、北九州市危機管理室の協力のもと、担当係長を講師として招へいし、北九州市の防災と減災への取り組みや、避難の考え方と避難所について動画を用いた資料による解説を受けた。 講演会当日は、学生消防クラブに所属する本学学生を中心に約 50 人の学生・職員の参加とともに、学外から自治体関係者、地域住民 8 人の参加があった。</p> <p>3. 効果 北九州市における防災体制・取り組みを知るとともに、避難行動における留意すべき事項を、参加者一同が再認識した。</p>	
学生の声	<ul style="list-style-type: none"> ・この度のプログラムでは、市内における身近な災害特性を再認識できた。 ・地域防災に関する研修会は、単年度のみに留まらず継続的に実施していく必要がある。 	
今後の改善内容 及び展開	<p>本事業の地域防災人材育成プログラムは、次年度以降も継続的に実施していく。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>	

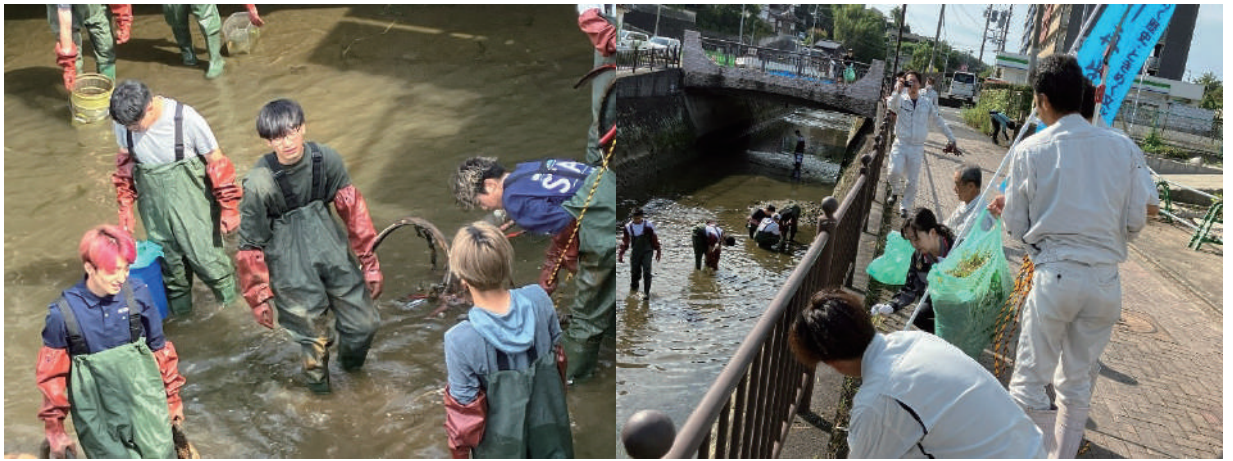
年 度	2023 年度	
事業プラン名	北九州市折尾まちづくり記念館 特別展示	
九州共立大学	担当者	山田 明
	所 属	スポーツ学部
連携機関	機関名	北九州市折尾まちづくり記念館、折尾地区学術連絡協議会
	責任者	
事業実施日・回数	2023 年 8 月～9 月展示物の作成、10 月～11 月展示	
実施場所	北九州市折尾まちづくり記念館（北九州市八幡西区）	
事業対象者 参加人数	事業対象者：北九州市折尾まちづくり記念館（来館者） 参加学生：21 名（3 年 9 名、4 年 12 名）	
経 費	北九州市折尾まちづくり記念館、折尾地区学術連絡協議会	
事業プランの目的・ 内容等及び実績と 効果	<p>1. 事業プランの目的・内容等 本学は地域活性化を目的として、北九州市折尾まちづくり記念館及び折尾地区学術連絡協議会（九州共立大学、九州女子大学・九州女子短期大学、産業医科大学、折尾愛真短期大学、自由ヶ丘高等学校、東筑高等学校、折尾高等学校、折尾愛真高等学校）と連携・協働し、「折尾の教育・研究分野」（教育機関）に関する特別展示を開催することになった。第 1 回特別展示「折尾の教育・研究分野」（教育機関）は福原学園である。</p> <p>2. 実績 自由ヶ丘の地での六十年の時を超えて、教育理念と建学の精神、創設者・福原軍造の強い信念を受け継ぎ、地域社会に貢献している学園を学生が取材し紹介した。</p> <p>3. 効果 北九州市折尾まちづくり記念館に来場する多くの方に、学園都市・折尾の発祥を知っていただく機会になった。また折尾地区に所在する学校間の連携協働が、折尾地区学術連絡協議会を中心に機能したことにより、未来に向かって学園都市のさらなる発展を見通すことができた。</p>	
学生の声	本プロジェクトに参加した本学の学生ボランティアは、自由ヶ丘の地での六十年間を振り返り、教育理念・建学の精神・創設者である福原軍造の強い信念を再認識したようである。また地域社会に貢献し、学生のシビックプライドにもなった。	
今後の改善内容 及び展開	特別展示の第 2 回は、産業医科大学に決定している。折尾地区学術連絡協議会を中心に生徒・学生が中心となって企画・作成する運営委員会を立ち上げる予定であり、次代の若者が活動しやすい環境を整備していきたい。	

九州共立大学 地域貢献・連携事業報告書

年 度	2023 年度	
事業プラン名	第 22 回 堀川いっせい清掃	
九州共立大学	担当者	甘 長青（ちょボラ部部長）
	所 属	経済学部
連携機関	機関名	堀川まちおこし事業実行委員会
	責任者	おりお堀川を愛する会 重藤 一 氏
事業実施日・回数	2023 年 10 月 1 日（日）9:00～11:00	
実施場所	八幡西区折尾地区（堀川周辺）	
事業対象者 参加人数	事業対象者：周辺地域の教育機関、企業、行政、地元住民、など 参加者数：九州共立大学 13 名（引率者：甘を含む）	
経 費	なし	
事業プランの目的・ 内容等及び実績と 効果	<p>1. 事業プランの目的・内容等 清掃活動を通じて、堀川の偉大さやふるさとする心を育み、堀川をきれいな川に再生させるなど、住みやすいまちになることを目指して取り組み続けている。</p> <p>2. 実績 日曜日の朝早くに関わらず多くの方が参加して堀川の清掃を行った。人数制限がされている中でも多くの高校や大学、企業などの団体の方々の協力があった。本学の男子学生は率先して川の中に入り、普段目の届かないところまで、たくさんのゴミを集めることができた。毎年参加している学生もおり、清掃の流れや場所が分かっていたので、柔軟に対応することができた。</p> <p>3. 効果 開会式で堀川の歴史についてお話された後に実際に歩いたので、堀川の素晴らしさを知るきっかけともなった。</p>	
学生の声	<ul style="list-style-type: none"> ・清掃活動にこれだけ多くの地域の方が集まることに驚いた。堀川は歴史があり、折尾のシンボリック的存在だと初めて知った。 ・ゴミ拾いをしながら様々な人と交流することができ楽しかった。 	
今後の改善内容 及び展開	毎年、この清掃活動を楽しみにしている大学生も多い。現在、10 名程度と人数制限があるため、限られた人しか参加できないが、機会があれば是非多くの大学生に参加してもらいたい。	



年 度	2023 年度	
事業プラン名	第 22 回 堀川いっせい清掃	
九州共立大学	担当者	顧問 木村美奈子 ・学生統括 藺田聖士
	所 属	SDGs チャレンジアクション研究会
連携機関	機関名	堀川まちおこし事業実行委員会
	責任者	おりお堀川を愛する会 重藤 一 氏
事業実施日・回数	2023 年 10 月 1 日 (日)	
実施場所	八幡西区折尾地区 (堀川周辺)	
事業対象者 参加人数	事業対象者：周辺地域の企業、教育機関、地元住民および行政 参加人数：10 名 (引率者：堂野崎・木村を含む)	
経 費	なし	
事業プランの目的・ 内容等及び実績と 効果	<p>1. 事業プランの目的・内容等</p> <p>200 年前に完成した、川と海をつなぎ人々の生活を豊かにしてきた人口運河『折尾堀川』は、運河としての役割がなくなった現代でも、地域の文化的シンボルとして位置付けられている。</p> <p>本事業は、堀川まちおこし事業の一環として堀川の保全活動を折尾地区周辺の企業、教育機関、地域住民及び行政が一丸となり行う一斉清掃である。</p> <p>2. 実績</p> <p>堀川まちおこし事業の一環として 2002 年よりはじまった堀川いっせい清掃は 2023 年で 22 回目となる。</p> <p>本年度は 8 名の学生と引率教員 2 名の計 10 名で参加し、班を構成した企業 (建設会社・JR 九州) との協同で作業を行った。</p> <p>川中では水中に沈んでいるゴミなどを丁寧に拾い、川の両岸では雑草取りとゴミ拾いを行った。毎年、多数上がるゴミと一緒に、盗難被害にあった自転車が財布・バックなども発見され、警察への引き渡し作業なども行った。また、毎年実施している川に生息している生き物の観察および水質確認を行った。</p> <p>3. 効果</p> <p>本事業は、堀川の保全活動であるが、町おこし事業としての性格もあり、折尾周辺の企業、教育機関、地元住民および行政が、同日同時間に一同に会して作業を行うことから、作業しながら会話を楽しみながら、地域の方と関わりあえることが学生たちにとっても良い機会となっている。</p> <p>大学所在地である折尾のまちを、自分たちも参画してきれいにしているという自覚が生まれ、学生たちの第二のふるさと折尾に対する地元愛の醸成に役立っている。</p>	
学生の声	<p>毎年地域みんなで行っている活動で大人から学生たちまでワイワイしながら参加しています！</p> <p>毎年自転車があがるのが恒例です！作業は大変ですが、その分掃除が終わったあとは達成感があります。また掃除と平行で水生生物の採取も行っており、楽しみながら参加しています。</p>	
今後の改善内容 及び展開	<p>本研究会では折尾地区の様々は町おこし、まちの賑わいづくりに参画しており、特に堀川の環境保全運動として別途「オリオンピック」の企画運営にも携わり、オリオンピックの収益金で堀川浄化のためにスラッジアウトの埋設も行っている。</p> <p>川の水の浄化状態をデータ集計し、SNS などで情報を公開することで、堀川の環境保全活動に興味関心をもってもらい、一緒に活動する仲間を増やしていきたい。</p>	



年 度	2023 年度	
事業プラン名	ゆずフェスティバル	
九州共立大学	担当者	花田 道子、アダプテッドスポーツ研究部
	所 属	スポーツ学部
連携機関	機関名	福岡県立社会教育総合センター/福岡県教育委員会
	責任者	福岡県立社会教育総合センター
事業実施日・回数	2023 年 11 月 12 日 (日) 《 全 1 回 》	
実施場所	福岡県立社会教育総合センター	
事業対象者 参加人数	事業対象者：712 名 参加人数 (学生ボランティア)：17 名	
経 費	福岡県立社会教育総合センター・地域連携推進センター	
事業プランの目的・ 内容等及び実績と 効果	<p>1. 事業プランの目的・内容等 地域に開かれた施設づくりの一環として、福岡県立社会教育総合センターの施設や自然を活用した様々な創作活動・体験活動等を地域住民へ提供し、同センターの事業等への理解を深めるとともに、ボランティアの育成を図る。プログラム対象は小学生以下の児童で、活動内容は創作活動・体験活動等である。</p> <p>2. 実績 「みんなで楽しくスポーツ体験！」九州共立大学のブースを1つ担当させて頂いた。誰でも楽しめるスポーツ体験 (ポッチャ/ブラインドサッカー/スラックアウト/ファミリーで握力・長座体前屈測定) コーナーを準備して、プログラム参加児童 (366 名) へのサポートを実施した。</p> <p>3. 効果 センター職員と連携・協働してプログラムを効果的に実施するなど、本事業を成功させる原動力になった。</p>	
学生の声	本事業プランに参加した学生ボランティアの多くは、生涯学習・社会教育に興味をもっており、貴重な経験になったようだ。活動後の充実感とともに異世代に関わることの難しさも理解したようであった。	
今後の改善内容 及び展開	本事業プランは、毎年、学生ボランティアがサポートしているものである。さらに充実して児童へサポートできる事前準備を実施したい。 今回パラリンピック種目の「ブラインドサッカー」と「ポッチャ」体験を取入れた。児童がそれらを身近に捉える機会としたい。	



長座体前屈



お父さん/お母さんの声を良く聞いて「シュート」



握力測定



目隠して「シュート」



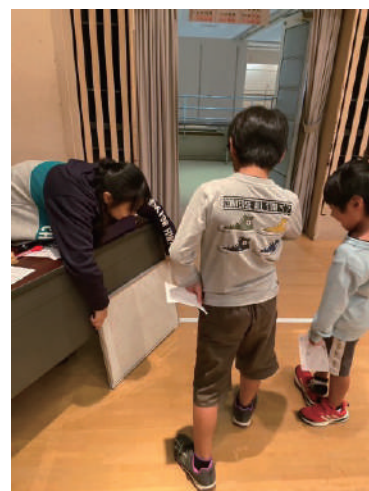
ストラックアウト



「目隠してって意外に怖いな〜」



ランキング↓



年 度	2023 年度	
事業プラン名	第 40 回中国・四国・九州地区 生涯教育実践研究交流会	
九州共立大学	担当者	山田 明
	所 属	スポーツ学部
連携機関	機関名	福岡県立社会教育総合センター 福岡県教育委員会 日本生涯教育学会
	責任者	主催：福岡県教育委員会、日本生涯教育学会九州支部
事業実施日・回数	2023 年 5 月 20 日、21 日	
実施場所	福岡県立社会教育総合センター	
事業対象者 参加人数	事業対象者：中国・四国・九州地区生涯教育実践研究交流会参加者 (約 500 名) 学生参加者：10 名 (3 年 9 名、4 年 1 名)	
経 費	地域連携推進センター	
事業プランの目的・ 内容等及び実績と 効果	<p>1. 事業プランの目的・内容等 福岡県教育委員会及び日本生涯教育学会九州支部が主催し、「まちづくり」・「人づくり」「つながりづくり」に取り組んでいる関係者が一堂に会し、実践発表を通して相互交流を図る大会である。学生ボランティアが本会の運営に協力した。</p> <p>2. 実績 中国・四国・九州地区の生涯教育関係者（自治体を含む）が一堂に会して実施する西日本最大の生涯教育プログラムの成功に大きく貢献した。具体的には、受付・分科会および交流会サポート・会場設営などを担当した。</p> <p>3. 効果 学生ボランティアは、生涯教育関係者である自治体関係者、教員、公務員などと交流しながら一緒に大会を運営した。その経験からコミュニケーション能力、情報集能力、課題解決能力などを向上させた。</p>	
学生の声	各自治体の教育委員会の職員などと一緒に 2 日間にわたる西日本最大の生涯教育プログラムを成功させた充実感・達成感を感じていたようだ。自らの進路志望に関係する人との交流があり、多様な情報を獲得したことも有益な経験だった。	
今後の改善内容 及び展開	本事業プランは、毎年、学生ボランティアがサポートしているものである。主体的な運営に関わることができるように、次年度も事前準備を充実して施したい。学生の希望もあり、企画段階から参加することを模索している。大会実行委員会の事務局とも連携しながら検討していきたい。	



年 度	2023 年度	
事業プラン名	ひこさんジュニアキャンプ（スポーツ社会教育実習）	
九州共立大学	担当者	山田 明
	所 属	スポーツ学部
連携機関	機関名	福岡県立英彦山青年の家
	責任者	研修課
事業実施日・回数	2023 年 5 月 27 日・28 日（1 泊 2 日）	
実施場所	福岡県立英彦山青年の家	
事業対象者 参加人数	事業対象者：小学生 30 名 参加学生：8 名（3 年 7 名、4 年 1 名）	
経 費	地域連携推進センター	
事業プランの目的・ 内容等及び実績と 効果	<p>1. 事業プランの目的・内容等 本事業の目的は、本学スポーツ学部の「スポーツ社会教育実習」を青少年教育施設で実施することにより、社会教育の目的である規律・協働・友愛の精神の涵養と実習先での諸活動を通して社会教育施設の運営を体得することである。活動内容は、スポーツ系社会教育施設の見学、スポーツ系社会教育施設職員による研修（仕事内容）、スポーツ系社会教育施設での実習（ボランティアを含む）である。</p> <p>2. 実績 福岡県立英彦山青年の家が主催する小学生および保護者対象のキャンプについて、プログラムのサポートを務めた。同青年の家の主催事業の成功に貢献するとともに、学生は社会教育施設の運営に関して深く学ぶことができた。</p> <p>3. 効果 社会教育主事任用資格の取得に必要な科目を学ぶ実習であり、同時に福岡県立英彦山青年の家でのボランティアも兼ねている。プログラム成功への貢献と学生の社会教育の経験という学習効果も実現できた。</p>	
学生の声	<p>学生は、ボランティアの経験を通して社会教育施設の必要性や意義を理解したとの意見が多かった。施設職員の活動の様子を見ながら、資格取得について一層モチベーションが向上した学生が多かった。小学生に対するキャンプ指導については、専門知識が十分でなく、準備の重要性を感じていたようであった。</p>	
今後の改善内容 及び展開	<p>次年度のプログラムでは、キャンプの専門指導に関して、さらに充実した事前研修を実施したい。小学生への指導は事故防止の観点から、危機管理を含めて準備をさせ、学修効果が上がるように意識をもって実習に参加させたい。</p>	

<h3 style="text-align: center;">ペットボトルピザづくり</h3>  <p>生地を出すときにボンという音が面白かった。</p> <p>ペットボトルでピザを作れるなんて知らなかった。とってもおいしかった。</p> 	<h3 style="text-align: center;">キャンプファイヤー</h3>  <p>天狗さんと歌ったり、踊ったりすることができて楽しかった。また、会えるといいな。</p>  
<h3 style="text-align: center;">自然の宝物探し</h3>  <p>神社まで一生懸命歩いて、たくさんの生き物を見つけることができた。</p> <p>自然の宝物をすべて見つけることができて、うれしかった。</p> 	<h3 style="text-align: center;">ホットサンド&スモアづくり</h3>  <p>みんなで協力しておいしいホットサンドを作ったよ。</p> <p>火の近くは熱かったけど、焼いたマシュマロで作ったスモアはとっても美味しかった。</p> 
<h3 style="text-align: center;">英彦山ペンダント作り</h3>   <p>木を使ってペンダントが作れるなんて知らなかった。</p>	<p>《全体を通して》</p> <p>英彦山の豊かな自然に触れながら、ペットボトルピザづくりや自然の宝物探しを行いました。終了後のアンケートではそれぞれの活動が楽しかったという回答とともに、「自分でお布団を敷くことができた」等自分のことは自分で取り組むことができるようになったと答えている子もいました。今回の事業への参加が、自然体験活動に進んで取り組むきっかけになればと思います。</p>



年 度	2023 年度	
事業プラン名	大学スポーツ資源を活用した地域振興モデル創出支援事業（スポーツ庁委託事業） 九州共立大学による北九州地区を対象としたアダプテッドスポーツの展開	
九州共立大学	担当者	松崎 淳
	所 属	スポーツ学部
連携機関	機関名	一般社団法人 大学スポーツ協会
	責任者	大学スポーツ資源を活用した地域振興モデル創出支援事業 事務局
事業実施日・回数	2023 年 10 月～2024 年 1 月（全 4 回）	
実施場所	九州共立大学 鶴鳴記念館	
事業対象者 参加人数	事業対象者：芦屋町、遠賀町、水巻町、岡垣町、宗像市、中間市の地域住民 参加人数：87 名（子ども）、116 名（高齢者）、158 名（大学生・教員）	
経 費	スポーツ庁助成金	
事業プランの目的・ 内容等及び実績と 効果	<p>1. 事業プランの目的・内容等 「アダプテッドスポーツ体験会」を通じ、身体を動かす楽しさに興味を持ってもらうことや、他の児童や高齢者と一緒になって何かをする楽しさを味わってもらうこと。また、子どもや高齢者の社会性の向上や住民間交流の形成と促進を目指すこと。活動の集大成として、世代間交流の活性化を実現するための重要な機会として、子ども・高齢者・大学生合同のアダプテッドスポーツ運動会を実施すること。</p> <p>2. 実績 九州共立大学アダプテッド・スポーツプログラム運営委員会を設置した後、世代間交流の活性化を目的とした体験会を 10 月から 12 月にかけて 3 回開催した。また、2024 年 1 月には、子どもと高齢者、大学生をもとに、12 チームの「異年齢チーム」を結成し、ポッチャと卓球バレーを行い、表彰式にて上位 3 チームに表彰状を贈呈した。これらプログラム参加者数として、361 人を動員した。</p> <p>3. 効果 KPI の一つとして、「プログラム期待度/満足度」を設定した。子どもの運動会に対する期待度・満足度は、6 つの項目全てにおいて満足度が期待度を上回る結果が示された。高齢者の結果からは、記念撮影を除く 5 つの項目において、満足度が期待度を上回った。運動会に参加した子どものお年寄りに対するイメージにおいて、参加前では、ネガティブなイメージを象徴する言葉が抽出されていたものの、参加後には、「たくましい」「前むき」「話しやすい」などのお年寄りとの親近感が湧いたことを連想させる言葉が抽出された。</p>	
学生の声	本事業に運営スタッフとして参加した学生に対してインタビューを行ったところ、やりがいのあったこととして、「子どもやお年寄りとのコミュニケーション」「子ども達との関わりや声かけの工夫ができるようになったこと」が抽出された。	
今後の改善内容 及び展開	今後は、2024 年度からの 3 ヶ年を対象に、大学施設（鶴鳴記念館）と連携市町におけるスポーツ施設を活用しながら、青少年から高齢者までを対象とした事業を継続する。実施するプログラムとしては、ポッチャ等の既存種目に加えて、九州共立大学スポーツ学部の学生が新たに創出したスポーツ（スポーツ・健康まちづくりデザイン学生コンペティション 2023〈アイディア部門：スポーツ庁長官賞受賞〉）を導入し、地域への普及を目指す。	

プログラムを支える学生の活動風景



学生スタッフ全員での記念撮影





九州共立大学世代間交流プログラム

—世代を超えたアダプテッド・スポーツの実践が多世代共生型コミュニティを創出する—

場所：九州共立大学 鶴鳴記念館

楽しみ、競い、交わる。

子どもから高齢者までの元気な方々が、運動・スポーツ経験や実践、障がいの有無など関わらず参加できる！！

「アダプテッド・スポーツとは」

- ルールや用具の改変等により、障がいの有無に関わらず多くの人が今持っている能力で楽しむことのできる運動・スポーツ。いわゆる、「人がスポーツに合わせるのではなく、人にスポーツが合わせる」という運動・スポーツ活動の考え方。

「開催日時」

○アダプテッド・スポーツ体験会・運動会

第1回 2023年10月21日（土） 10時00分～12時00分

第2回 2023年11月25日（土） 10時00分～12時00分

第3回 2023年12月17日（日） 10時00分～12時00分

運動会 2024年1月21日（日） 9時30分～13時00分



「プログラム」

<アダプテッド・スポーツ体験会>

- ①健康チェック
- ②リズムダンス（準備運動）
- ③みんなでアイスブレイキング
- ④アダプテッド・スポーツに挑戦
 - 第1回体験会 ポッチャ
 - 第2回体験会 卓球バレー
 - 第3回体験会 ふうせんバレー
- ⑤ふりかえり

<アダプテッド・スポーツ運動会>

- ①健康チェック
- ②選手宣誓
- ③リズムダンス（準備運動）
- ④アダプテッド・スポーツ地区対抗戦
 - ポッチャ ○卓球バレー
 - ふうせんバレー
- ⑤アダプテッドコーナー
- ⑥表彰

※本事業は、令和5年度 大学スポーツ資源を活用した地域振興モデル創出支援事業（スポーツ庁委託事業）の助成を受けて実施しております。

<九州共立大学アダプテッド・スポーツプログラム運営委員会>

○本事業に関するお問い合わせは、下記の電話番号およびメールアドレスまでお願いします。

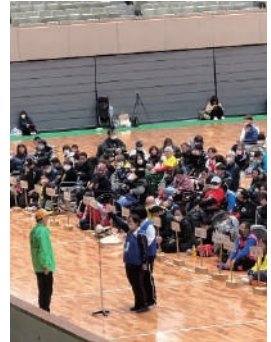
〒807-8585

福岡県北九州市八幡西区自由ヶ丘1-8 九州共立大学 スポーツ学部 花田道子研究室

TEL：093-693-3060

E-MAIL：kku.adaptedsports@gmail.com

年 度	2023 年度	
事業プラン名	第 34 回 全国ふうせんバレーボール大会	
九州共立大学	担当者	花田道子、九州共立大学女子バレーボール部、アダプテッドスポーツ研究部
	所 属	スポーツ学部
連携機関	機関名	日本ふうせんバレーボール協会
	責任者	会長 林 英之 氏
事業実施日・回数	2024 年 3 月 10 日 (日) 《 全 1 回 》	
実施場所	北九州市立総合体育館	
事業対象者 参加人数	参加者：40 チーム (約 400 人) 九州共立大学女子バレーボール部 12 名 アダプテッドスポーツ研究部 8 名	
経 費	地域連携推進センター	
事業プランの目的・ 内容等及び実績と 効果	<p>1. 事業プランの目的・内容等 1989 年に北九州市において「障がい者の完全参加と平等」をコンセプトとして開発された「ふうせんバレーボール」の普及を通じ、障がい者の社会参加を進め、ふれあいの和を広げながら「誰もが支えあって生きる社会の実現」を目指した大会である。</p> <p>2. 実績 今年で 34 回目を向かえ、今大会は台湾のメンバーの参加があった。学生たちは事前に研修を行い、当日はバレー部が副審、アダプテッドスポーツ研究部は記録係として貢献した。</p> <p>3. 効果 共生社会の実現に貢献した。 学生たちが障がいに対する理解を深め、スポーツはみんなのものであることを実感することができた。</p>	
学生の声	<ul style="list-style-type: none"> ●全国ふうせんバレーボール大会に記録員として参加させていただく中で、多様性を理解し合い、1 つのチームとしてふうせんバレーに真剣に取り組む姿に強く心を打たれました。また、試合中には自分のチームだけでなく良いプレーをした時には全員が称賛し合うような場面が多く見られ、すごく温かい雰囲気の大大会でした。 ●この大会を通して私は、ふうせんバレーは人と人をつなぐ架け橋になると感じました。様々な個性を活かして行えるふうせんバレーはもっと世界に広まると思います。このような大会に参加させていただき、ありがとうございました。来年度の東アジア大会が楽しみです。 	
今後の改善内容 及び展開	<p>ふうせんとは言え、かなりのスピードのあるアタックやサーブ展開がなされるため、バレー経験者でもジャッジが難しい。今年度は、さらに記録係の依頼もあったことから、ルールの把握と記録方法を事前に習得しておく必要がある。</p> <p>誰もが楽しめるスポーツとして一緒に楽しむことができ、支える側として審判スキルを身に付けた「人の役に立ちたい」と思える学生を育てたい。</p>	



—互いに支え合う精神が、人と人との「絆」を深め、北九州市から世界に広がりますように—

年 度	2023 年度	
事業プラン名	小学生のためのレベルアップ短期水泳教室	
九州共立大学	担当者	森 誠護、重枝 武司
	所 属	スポーツ学部
連携機関	機関名	九州共立大学地域連携推進センター
	責任者	地域連携推進センター所長
事業実施日・回数	〔夏期〕2023年8月7・8・9日、〔春期〕2024年3月25・26・27日	
実施場所	福原学園屋内公認プール	
事業対象者 参加人数	九州共立大学近隣に在住の小学1年生～6年生 〔夏期〕16名 〔春期〕20名	
経 費	学内特別教育研究費・地域連携推進センター	
事業プランの目的・ 内容等及び実績と 効果	<p>1. 事業プランの目的・内容等 文部科学省は平成29年に改訂された小学校学習指導要領において、小学校の体育における水泳運動系の領域は、低学年が「水遊び」、中・高学年が「水泳運動」で構成されている。しかし、令和2年度以降、新型コロナウイルスの影響により多くの小学校において水泳授業が中止され、十分な水泳教育が行えていないのが現状である。研究代表者らは令和3年度から「小学生の泳力向上を目的とした水泳教室」を実施することで、学校教育での水泳指導の課題を明らかにし、短期水泳プログラムが児童の泳力向上に及ぼす効果について検討してきた。そこで本教室では、泳力向上の効果測定において、受講者がより上達を実感できる評価方法を作成し、検証することを目的とした。</p> <p>2. 実績 当該年度の水泳教室は夏期および春期に分けて2回実施した。夏期は16名の申込があり、15名が参加した。春期は20名の申込があり、20名が参加した（うち5名は初日のみ参加）。令和4年度より「泳力カルテ」を用いており、水泳教室開始前にインタビュー形式にて「事前・泳力カルテ」で泳力を把握し、その後、泳力を実際に把握する事で、適切なクラス分けを実施している。また、最終日には同様に泳力チェックを行い、「事後・泳力カルテ」を用いることで到達度を確認した。なお、水泳教室終了後には参加者および保護者に対して「受講後アンケート」をインタビュー形式にて実施した。</p> <p>3. 効果 泳力カルテは、全42項目のチェック項目があり、①水に慣れる、②呼吸が習得できている、③バタ足が習得できている、④クロールが習得できている、⑤平泳ぎが習得できている、⑥背泳ぎが習得できている、⑦バタフライが習得できている、の7段階からなっており、それぞれに6つの項目がある。この全42項目にチェックがついている場合には、4泳法がすべて泳げているということになる。夏期受講者15名ならびに春期受講者15名（初日のみの参加者5名は除く）の全受講者が「事後・泳力カルテ」において泳力が向上しており、一定の成果が得られた。 受講後に行なった参加者アンケートでは、「1. この水泳教室は楽しかったですか?」「6. 先生は親切でしたか?」「7. また水泳教室に参加したいですか?」の質問において、夏期および春期ともに全参加者が「はい」と回答しており、満足度の高さが確認できた。また、参加者のうち11名が夏期・春期共に参加していることから、今後も継続して水泳教室を開催することが必要であると考えられる。</p>	

<p>学生の声</p>	<p>本プロジェクトには、九州共立大学水泳部に所属する学生にアシスタントコーチとして参加してもらった（夏期 12 名、春期 11 名）。水泳教室前には指導担当の配置や指導内容に関する打ち合わせを実施した。実際に指導をしていく中で、水泳指導の難しさや面白さを感じたとの意見が得られた。学生たちともコミュニケーションをとり、適宜、指導方法などについて助言を行いながら進め、受講生の満足度も高いものとなった。</p>
<p>今後の改善内容及び展開</p>	<p>令和 3 年度から「小学生の泳力向上を目的とした水泳教室」を実施することで、学校教育での水泳指導の課題を明らかにし、短期水泳プログラムが児童の泳力向上に及ぼす効果について検討してきており、一定の成果を上げることができた。また、コロナ禍以前には水泳の普及活動の一環として「九州共立大学スイムフェスタ」という水泳イベントを開催したものの、2020 年以降は実施することができなかった。令和 6 年度は、泳力向上を目的とした短期水泳教室と普及を目的とした水泳イベントを開催し、学校体育における水泳指導の課題を明らかにする。</p>



年 度	2023 年度	
事業プラン名	宗像市「大学生の力によるまちの課題解決プロジェクト」 世代間・領域間化学反応プロジェクト	
九州共立大学	担当者	後藤浩士・諸賀加奈・尾上百合加
	所 属	経済学部 プロジェクトチーム名：宗像市戦略的まちづくり塾 1.0
連携機関	機関名	宗像市役所
	責任者	経営企画課
事業実施日・回数	2023 年 7 月～2024 年 3 月（14 回）	
実施場所	宗像市大島地区、日の里地区	
事業対象者 参加人数	宗像市民約 250 名（大島地区約 100 名、日の里地区約 150 名） 九州共立大学経済学部学生約 40 名	
経 費	宗像市（大学生の力によるまちの課題プロジェクト）助成金	
事業プランの目的・ 内容等及び実績と 効果	<p>1. 事業プランの目的・内容等</p> <p>宗像市で長年生活し、市の良いところも悪いところも熟知されている「高齢者の知恵」を定量・定性分析を行うことで「見える化」し（暗黙知の可視化）、市が抱える課題に対する政策提言を行なうことを目的とした。</p> <p>第1段階として高齢者から若者に継承したい「思い」を聞きとることに取り組んだ（質問紙法）。この傾聴は「文化」継承ともいえるものであり、信頼関係の醸成により第2・3段階の調査内容をより深化したものにすることができると考えた。</p> <p>第2段階として高齢者にとって住みよいまちは、他の世代にとっても住みよいまちにつながると考えた。住環境を「福祉」「環境」の両側面から横断的に分析し、政策としての新しい価値を模索する。これは2つ目の化学反応であると考えた。</p> <p>第3段階は、宗像市内の小中高等学校生との世代間交流である。高齢者から受け継がれた「知恵」は大学生が媒介者となり、宗像市の「子供」たちに伝えられる。また、「高齢者」と「子供たち」の地域での接点が生まれると考えられる。さらに、実施地区ごとに成果を比較し、市民に SNS および回覧方式で伝えていくことで、異なる地域への意識が高まり地域間交流が生まれるきっかけとなる。宗像市は、地域の拠点が分散化しており、地域間交流のきっかけになり、市の一体性の醸成にも資すると考えた。</p> <p>調査方法は高齢化率の高い「日の里地区」と「大島地区」を対象に質問紙による調査を実施し、調査結果に対し計量テキスト分析を行い、自己組織化マップおよび共起ネットワーク等を用いることにより、市が抱える課題へのエビデンスに基づく提言を大学生が行う。これらの調査・分析結果が宗像市の「福祉」「環境」及び関連領域の政策の企画立案の有効性を高めることに貢献できる。</p> <p style="text-align: center;">〔活動計画〕</p> <p>(1) コミュニティセンターでの事業説明と意見交換 (2) アンケート実施に関する事前説明会（連合町内会） (3) アンケート調査実施（日の里地区3町内会、大島地区） (4) アンケートの分析 (5) 全世代型交流行事への参加（日の里地区、大島地区） (6) コミュニティセンターでのミニ議会の実施による政策提言 (7) 活動報告書の作成・送付</p>	

	<p>2. 実績</p> <p>1. の(1)～(5)については、計画に沿って事業期間内に活動を終えることができた。(7)については、意見集約と製本化に時間を要したが計画通り事業目的を達成することができた。</p> <p>3. 効果</p> <p>「福祉」と「環境」という異なる政策領域を横断的に分析・考察し、地域の潜在化している課題を掘り起こし、有効性のある施策を高齢者の知恵と大学生の柔軟な思考、各領域の専門知を有する教員の指導により効果的に実施する。社会的弱者といわれる高齢者の声をまちづくりに活かすとともに、大学生による調査によって世代間交流の過程で新しい気づきによる副次的効果が期待できると考えた。高齢者および大学生による子供たちとの交流は、親の世代を巻き込んで市内のすべての世代の交流という新しいウェーブを巻き起こすことを期待したものである。</p>
<p>学生の声</p>	<p>〔両地区で実施されたすべての行事に参加した園川千尋さんの声〕</p> <p>今回の調査結果から、日の里地区と大島地区の住民はそれぞれ異なる関心や課題を抱えていることが明らかになった。日の里地区住民は環境問題に関心が高く、特に地球温暖化と廃棄物問題に注目している。また、自由記述回答からは、日の里地区の魅力として緑や駅、海、交通、山などが挙げられている。健康や福祉に関してはウォーキングや公共施設の利用が主な取り組みであり、地域の施設の充実に対する意識が示されている。環境問題に関しては、ゴミ分別やエコバックの持参などが行われている。日の里地区では交通の便や緑の豊かさが評価されており、健康や福祉に関してはウォーキングや地域の公共施設の利用が挙げられている。</p> <p>一方、大島地区では海洋汚染や地球温暖化に対する意識が高く、地域の取り組みに対する知識が不足していることが分かる。この情報をもとに、両地区のニーズや関心に合った施策や取組みを検討することが重要だと考えた。</p>
<p>今後の改善内容及び展開</p>	<p>上記1.(6)コミュニティセンターでのミニ議会の実施による政策提言については、参加学生の日程調整に時間を要し、事業期間内に実施することができなかったため、今後の課題としたい。</p>

(1) コミュニティセンターでの事業説明と意見交換

アンケート（質問紙法）を実施するにあたり、住民の皆様にご理解いただくため、説明会を実施した。

(2) アンケート実施に関する事前説明会（連合町内会）

日の里地区では、コミュニティセンターの池田様、伊藤様、まちづくり委員会の木村様、大島地区では本田様に丁寧な説明および親身な助言をいただき、円滑に実施することができた。

(3) アンケート調査実施（日の里地区3町内会、大島地区）

日の里地区については、アパート1区、2丁目、4丁目の3つの地区でアンケートを実施した。

(4) アンケートの分析 諸賀ゼミ3名がアンケートのとりまとめと分析を行った。

(5) 全世代型交流行事への参加

【大島地区】

①大島地区：大島全島運動会

コロナ禍によって中止されていた島民大運動会が数年ぶりに開催された。従来は大島学園（小中一貫校）と地区の運動会は別々に開催されていたが、今回は双方を一緒に行う全世代型交流型の運動会になっていた。幼児から大人までが一緒になって競技に取り組むプログラムの数々は、まさに世代間交流の実践事例であった。防災意識を高める競技が行われるなど工夫された企画は大いに勉強になりました。私たちのチームはオープン参加の競技や後片付けに参加した。



【日の里地区】

②日の里地区：ストリートパーティー

駅前の道路を歩行者天国にして、日の里地区の老若男女の住民の皆さんと一緒にまち歩きイベントを楽しんだ。

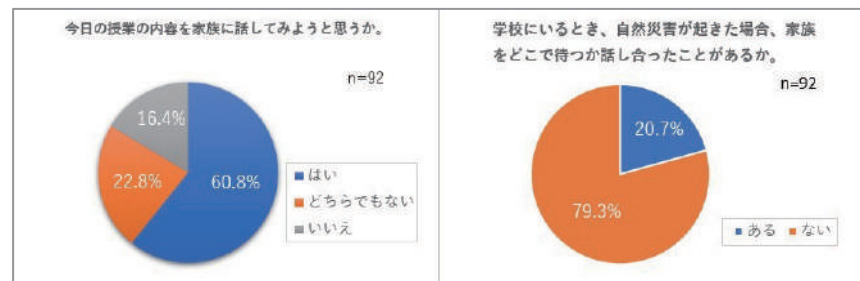


年 度	2023 年度	
事業プラン名	宗像市「大学生の力によるまちの課題解決プロジェクト」 「地域共生社会へのパラダイムシフト」～パートナーシップを基軸にした 自然災害に強いまち～宗像市地域防災 100 年プロジェクト	
九州共立大学	担当者	顧問 木村美奈子 ・学生統括 藺田聖士
	所 属	SDGs チャレンジアクション研究会・経済・経営学科ワークショップ受講生
連携機関	機関名	宗像市役所
	責任者	経営企画課
事業実施日・回数	2023 年 7 月～2024 年 3 月	
実施場所	宗像市立赤間西小学校 ほか	
事業対象者 参加人数	事業対象者：赤間西小学校(92名)ほか 参加人数：21名	
経 費	宗像市（大学生の力によるまちの課題プロジェクト）助成金	
事業プランの目的・ 内容等及び実績と 効果	<p>1. 事業プランの目的</p> <p>地球温暖化が年々進行していくに連れて、自然災害の発生頻度も増加傾向にある。近年福岡県内各地においてもさまざまな災害に見舞われており、平成 29 年の九州北部豪雨以降、平成 30 年 7 月豪雨、令和元年 7 月、8 月の大雨、そして令和 2 年 7 月豪雨と、4 年連続で大きな自然災害に遭い、その災害時に大切な人命を失ったことは記憶に残る出来事である。</p> <p>今回のプロジェクトは、避けることができない自然災害に対して、宗像市民一人ひとりの災害への「防災意識」を高めることで、自助、共助の力を高め、宗像市における自然災害での人命被害をゼロにすることを目的として活動する。</p> <p>2. 事業プランの内容</p> <p>本年度のプロジェクトは、市民への防災減災意識の向上を狙い防災教育を行う。災害は「地域」で起きていることに着目し、「地域」の最小組織である「家庭」にフォーカスして防災減災に対する意識付けを行うことにした。各家庭の構成員は様々であるが、今回は、家庭の中に存在する「子ども」を対象に、子ども向けの「遊び」と「防災」を掛け合わせた防災教育「あそぼうさい」を実施することにした。子どもを対象にする理由は、子どもが学んだ防災減災に対する意識や知識を家庭に持ち帰り、防災減災について家族と会話することで、「子ども」から「家族」へと間接的に繋がる防災教育の二次的教育の効果を期待している。本年度のプロジェクト実施については、ソフトバンク株式会社との産官学連携事業として、ソフトバンク社の人型ロボット Pepper くんに配置されている赤間西小学校、東郷小学校、宗像市内東郷小学校学童クラブの三団体で「あそぼうさい」を実施した。</p> <p>3. 実施日及び場所</p> <p>1.実施日：9/22 対象：赤間西小学校 5 年生全クラス 2.実施日：2/22 対象：東郷小学校 3 年 2 組 3.実施日：3/16 対象：東郷小学校学童クラブ ※各「あそぼうさい」事前準備のため、各小学校への訪問打ち合わせを実施した。</p> <p>4. 効果</p> <p>事後アンケートの自由記述欄から、子どもたちが災害に対して危機感を感じ、早めの避難が大事なことや、常日頃から防災に対する備えが必要であることがわかったと、多くの子どもたちのコメントに記されていた。また、「遊び」と「防災」を掛け合わせた防災教育「あそぼうさい」の体験から、「遊び</p>	

ながら防災について学べる」という新規性のある学び方について多くのコメントが寄せられ、好評であった。

設問「家族と防災について話してみようと思うか」には、60.8%の子どもたちが家族に話してみようと思うと回答した。学んだ防災知識・意識について、家庭に持ち帰り、家族で話すことで「子ども」から「家庭」へと間接的に防災に対する情報の共有の機会が設けられ、二次的防災教育の効果があると示唆できる。

また、我々のアンケート活用は「あそぼうさい」での学びの確認だけではなく、「あそぼうさい」の限られた時間で伝えきれていないことや家族と改めて話し合ってもらいたいことなどを設問にしている。例えば、「小学校にいるときに災害が起きた場合、家の人とどこで待ち合わせするか話し合ったことがあるか」という設問である。この設問の背景には、2011年に起きた東日本大震災の教訓がある。東日本大震災の発生時間は14時46分頃であった。当時、多くの子どもたちは小学校で被災している。このことから「小学校にいるときに災害が起きた場合、家の人とどこで待ち合わせするか話し合ったことがあるか」という設問を設定した。この設問には、約80%の子どもたちが話し合ったことがないと回答した。前述した東日本大震災のように、家族と離れた時に被災した場合のことを想定して、家族をどこで待つのか、どのような連絡方法をとるのかなどを事前に話し合うことが必要であること伝え、この設問が家族と話し合うきっかけとなるように設定をした。



図：赤間西小学校5年生事後アンケート結果（一部抜粋）

子どもたちにとって、身体を使う活動性の高いコンテンツは印象に残りやすいようである。今後も継続的に、未実施の小学校・幼稚園・保育園で「あそぼうさい」型の防災教育を実施し、自助力・共助力を高めることで、「災害に強いまち、宗像市」を目指したい。

学生の声

沈黙避難所生活ゲーム（ジェスチャーゲーム）に参加した子どもたちの反応は良く、「避難所はどんな場所なのか、どんな行動をするのか理解できましたか」という質問に対し、ほとんどが「分かった」と回答しました。このことから、子どもたちの防災知識や自助意識は確実に高まったと思われませんが、実際、防災グッズを各家庭に備えるためには、保護者の理解と協力が必要です。保護者を巻き込んだ活動により、さらに地域の自助強化が期待されるため、親子で学んでもらえるような「あそぼうさい」の実施が今後の課題であると考えます。（経済・経営学科ワークショップ受講生）

今後の改善内容及び展開

子どもたちは身体を動かすことが大好きである。その一方で、近年子どもたちの体力低下が問題視されている。そこで次年度からは「あそぼうさい」の遊びの要素に、日本スポーツ協会が推奨しているACP（アクティブチャイルドプログラム）を取り入れながら、より一層、活動性の高い防災減災教育を実施したい。また、子どもたちに人気のPepperくんを用いた防災教育については、新しい試みとして、大学生がプログラミング学習の支援を行い、子どもたち自身で防災用の教材づくりをさせる機会を作りたい。これにより、主体的に防災を考える機会となり、子どもたちの防災減災への取り組み意識から、地域のこと、自分のこととして涵養できるのではないかと考える。

次年度は、より多くの小学校・幼稚園・保育園での「あそぼうさい」を計画し、併せて、「子ども」から「家庭」へ、「家庭」から「地域」へ、広げるための「大人」を含めた親子や家族対象の防災減災のワークショップを市内コミュニティセンター等で開催したい。

令和5年度 宗像市まちの課題解決プロジェクト 報告書



「地域共生社会へのバウダインメント」
—パートナーシップを軸にした自然災害に強いまち—
宗像市地域防災100年プロジェクト

九州共立大学 SDGs チャレンジアクション研究会

SDGsチャレンジアクション研究会
学生プロジェクトリーダー：齋藤聖士



活動を振り返って

本年度の宗像市学生の力によるまちの課題解決プロジェクトは地域貢献に貢献され、「災害に強いまち、宗像市」を目指し、市民一人ひとりの防災意識における意識向上のための防災教育を実施しました。

今回は、宗像市の小学校に導入されているソフィアロボットの Pepper キューブを利用し、スプラッシュを模擬して「遊びと「防災」を掛け合わせた「あそぼうさい」を実施しました。

報告は「お話し」で起こることに注目し、「あそぼうさい」実施後に小学校区単位での起こり得る自然災害について事前調査し、校区災害に備える「あそぼうさい」のコンテンツ作成や設定を行いました。

9月に実施した宗像市小学校では、5年生全クラスに対して「あそぼうさい」を行うことができました。実施後のアンケート結果から、防災に対する知識の向上や防災意識の向上を確認することができ、私自身も達成感を得ることができました。

2月に実施した宗像市小学校では、3年2組の1クラスのみ実施することができました。実施後に担任の先生の方針から、授業に際し、学生と先生で「あそぼうさい」についての話し合いの時間を取っていたことがわかりました。繰り返しの練習では、児童に各コンテンツの防災の知識を伝えたところ、ほとんどの児童たちがコンテンツがもつ防災についての意義や行動について理解し、災害時に「自分の命を守る行動をとる」という、自分たちの命を守る行動が大事であることを理解できていることが確認できました。

宗像市小学校の子育てクラブでは、夏休みの子どもたちが対象であったことから、宗像市の子は遊びに夢中、ない防災の思いを伝えることの難しさを感じました。子育てクラブで「あそぼうさい」の部分の文化や経験による運動能力、体力、知力の違いがもたらす、今後の「あそぼうさい」コンテンツ開発や「あそぼうさい」の進行に活かしたいと考えます。

アンケートの結果は、子どもたちは楽しみなが防災を学んだという回答や、防災を自分でも考えようと思ったという声があり、手ごたえを感じました。

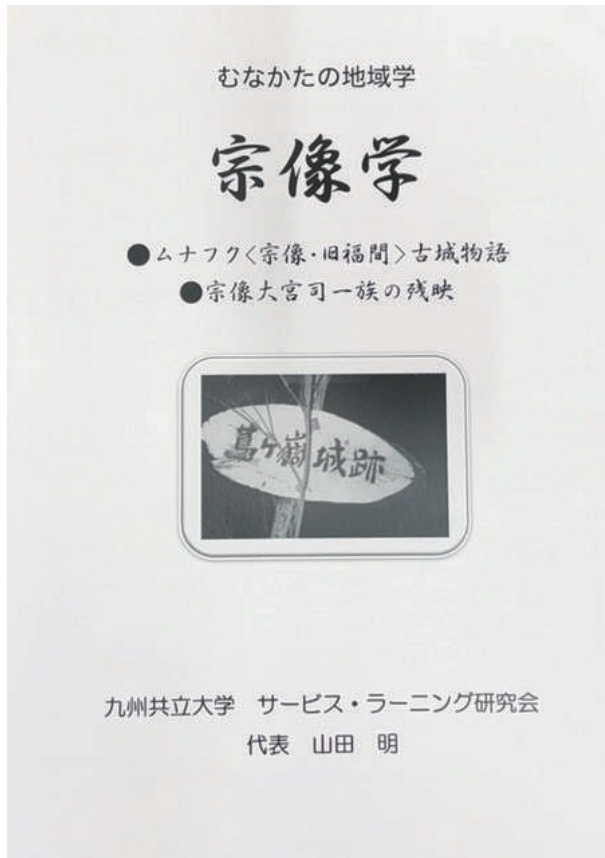
市民防衛（防災会）・成年会等では、社大学の各専門分野からの視察の見え方、防災の思いを伝えることだけでなく、命を守るための準備が大切でありました。また、他大学の学生と意見交換や交流できる機会も数多く、それぞれの専門分野の知識を活かした意見を交わることができ、貴重な経験を得ることができました。

プロジェクトに参加する中で、事前準備や調整など、事前に想定通りや地域の方と話すことで宗像市の地域の特長や魅力に感じることができました。

若手学生協会の取り組みがあり、私たち学生に不慣れな点が多くある中、関係者の皆様からさまざまな指導・助言をいただき感謝申し上げます。多くの方から支えられてもらうことで貴重な経験や学びを得て成長することができました。ご協力いただきありがとうございました。



年 度	2023 年度	
事業プラン名	宗像市「大学生の力によるまちの課題解決プロジェクト」 宗像学の構築	
九州共立大学	担当者	山田 明
	所 属	スポーツ学部
連携機関	機関名	宗像市役所
	責任者	経営企画課
事業実施日・回数	2023 年 7 月～2024 年 3 月の間、10 回	
実施場所	九州共立大学、宗像市	
事業対象者 参加人数	事業対象者：宗像市内外の市民 参加学生：9 名（3 年）	
経 費	宗像市（大学生の力によるまちの課題プロジェクト）助成金	
事業プランの目的・ 内容等及び実績と 効果	<p>1. 事業プランの目的・内容等 宗像市の地域活性化を目的に、豊富かつ貴重な歴史遺産、伝承などの魅力を掘り起し、冊子（PDF データを含む）を編集して市内外に広報する地域学を構築した。また冊子の内容の理解を容易にする目的で、DVD 動画（現地フィールドワーク）も併せて作成した。なお本事業では既存の地域史の枠組みにとらわれず、学生の新たな視点で宗像の魅力を再発見した。</p> <p>2. 実績 活動については、以下の通り。 <ul style="list-style-type: none"> ・2023 年 6 月～9 月：歴史遺産、伝承（文献調査・聞き取り調査） ・2023 年 10 月：フィールドワーク（2 回） ・2023 年 11 月～12 月：原稿作成、編集、レイアウト ・2024 年 1 月：DVD 作成 ・2024 年 2～3 月：冊子完成、PDF データ及び DVD 動画完成 </p> <p>3. 効果 地域学の構築という取り組みを通して宗像市の魅力を問い直し、再発見することで、地域活性化・まちづくり・生涯学習につながる基礎資料として活用できる。次世代（子ども、青少年）においては、郷土・宗像の歴史資源や伝統文化の保存及び継承への意識づけとなる教材として、小学校および中学校の総合学習にも活用できる。「宗像学」を SNS 等活用して、宗像市の歴史遺産を市外の人に広報することで、宗像市に興味関心を持ってもらい、市を訪れるきっかけとなることも期待できる。</p>	
学生の声	<p>学生の力による地域活性化を目指した活動のプロセスで、地域を意識すること、地域について考えること、より多くのことを知識として学ぶということ、地域の魅力は再発見できること、その成果を広く地域住民に伝えること、以上のような学びを体得でき、そのことが地域課題の解決につながることを学んだようである。</p>	
今後の改善内容 及び展開	<p>成果物を活用した学生による宗像市民（内外の人も含む）を対象とした講演会は、冊子・PDF データ・DVD 動画作成で時間が取れずできなかった。今後、講演会の依頼があればボランティア活動として対応したい。</p>	



年 度	2023 年度	
事業プラン名	宗像市「大学生の力によるまちの課題解決プロジェクト」 スポーツを通じて宗像を「笑顔」に！ ～宗像市民の弾ける「笑顔」を届け隊（たい）～	
九州共立大学	担当者	松崎 淳
	所 属	スポーツ学部
連携機関	機関名	宗像市役所
	責任者	経営企画課
事業実施日・回数	2023 年 7 月～2024 年 3 月（全 10 回）	
実施場所	宗像ユリックス、グローバルアリーナ、宗像市内中学校	
事業対象者 参加人数	事業対象者：宗像市民 参加人数：60 名（市民）、12 名（大学生・教員）	
経 費	宗像市（大学生の力によるまちの課題プロジェクト）助成金	
事業プランの目的・ 内容等及び実績と 効果	<p>1. 事業プランの目的・内容等 本事業は、普段、スポーツ振興論を学ぶ大学生が、第2次宗像市総合計画後期基本計画、宗像市スポーツ推進計画の策定状況を踏まえて、情報発信支援ツールの開発を目指すという着想に至った。本グループが実施した事業は、「スポーツを通じて宗像を「笑顔」に!～宗像市民の弾ける「笑顔」を届け隊（たい）～」である。具体的な活動内容は、まず九州共立大学スポーツ学部にも所属する学生を中心に「笑顔届け隊（たい）」を結成した。その後、宗像市における地域性に基づいた環境資源を活用したスポーツ推進を目的に開催されるスポーツ大会や教室に学生が赴き、スポーツ参加者の声についてインタビューを通じて入手し、学生が入手したスポーツ参加者の声を、生涯スポーツの楽しみ方の項目に当てはめ分析を実施した。</p> <p>2. 実績 本グループの事業の成果としては、1)「3 分間」で分かる、宗像のスポーツの魅力（動画）、2) 宗像市のスポーツの魅力を市民にお届けする情報発信ツールの開発、3) 市内施設やイベント会場で掲載するスポーツ普及・啓発チラシが挙げられる。</p> <p>3. 効果 本事業の遂行は、地方自治体やスポーツ団体が実施するスポーツ推進事業に関して、それらを住民に発信するための情報発信の場として機能し宗像市民のスポーツ参画の機会の促進に寄与した。</p>	
学生の声	事業を終え、学生からは、「活動を通じてリーダーシップが身に付いた」「行政担当者とのコミュニケーションの中で企画を行うことの楽しさを感じた」などの声が抽出された。	
今後の改善内容 及び展開	<p>本年度、九州共立大学からは4つのチームが本事業へ参画した。しかしながら、他の3つのチームとはSNS上においても交流がなく、活動の様子をシェアすることができなかった。次年度は、大学内においてもSNSを活用した情報発信に関する戦略の共有化を図る。</p> <p>松崎ゼミナールには11名の学生と1名の教員が所属している。本事業では、宗像市内でのインタビュー活動やフィールドワークが中心となったが、個々のスケジュール調整が上手くいかず、予定されている撮影日に必要人数が集まらないことがあった。次年度は、学生一人一人に対して、事業実施に向けた役割の確認を行なった上で、大学外の関係者とのスケジュール調整を行う。</p>	

宗像ユリックス施設管理人に対して学生がインタビューを行う様子



事業報告会における学生のプレゼンテーションの様子



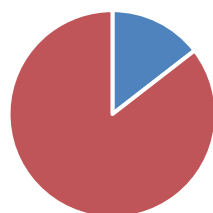
2023年度【前期・後期】公開講座実績報告

2023年度に地域連携推進センターで開催された講座は、前期4講座、後期4講座の合計8講座でした。講座の延べ人数は640名、受講生は62名でした。

【公開講座】

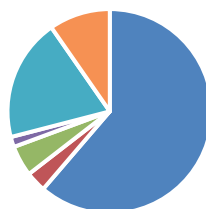
講座名	実施期間・回数	受講生数			担当講師
		男	女	合計	
美しい韓国語（前期）	5/9～8/1 火曜日 10：00～11：30 12回	2	5	7	朴 淑子
美しい韓国語（後期）	10/3～2/6 火曜日 10：00～11：30 16回	2	5	7	
歌う喜び「世界の名曲」（前期）	5/17～7/19 水曜日 13：30～15：00 6回	1	8	9	八代 眞知子
歌う喜び「世界の名曲」（後期）	10/4～1/24 水曜日 13：30～15：00 8回	1	8	9	
書道技法講座（前期）	5/12～8/4 金曜日 13：05～14：35 10回	1	13	14	九州女子大学 古木 誠彦
書道技法講座（後期）	10/6～2/2 金曜日 13：05～14：35 12回	1	13	14	
想いをつぐむ「日常に役立つマナー」（前期）	6/14～8/9 水曜日 13：00～14：00 5回	0	1	1	野口 由香里
想いをつぐむ「日常に役立つマナー」（後期）	10/25～1/17 水曜日 13：00～14：00 5回	1	0	1	
公開講座 計		9	53	62	

性別



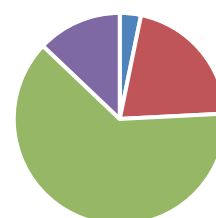
■ 男 ■ 女

居住地



■ 八幡西区 ■ 八幡東区 ■ 小倉北区
■ 門司区 ■ 若松区 ■ 遠賀郡

年代



■ 40代 ■ 60代 ■ 70代 ■ 80代

* 受講生アンケート *

- ・ 毎回講座に行くのが待ち遠しく思っています。書道の技法のみならず、先生の書の歴史の話が良くわかり、とても知識が広がって勉強になります。
- ・ 年代の幅も広く、技術の幅も広い受講生のそれぞれが楽しく技法を高めたり、中国だけでなく日本の昔の書にも親しめたり、とても気に入っています。これからも受講を続けたいと思います。
- ・ 講師の先生が熱心に教えて下さるので、毎回楽しく来させて頂いています。韓国語だけでなく、色々な情報の共有や、仲間の方々との交流・コミュニケーションもとても有意義な時間です。
- ・ ハングルを学ぶことで、地域での交流と国際交流にかかわることができています。講師の先生は、わかりやすく明るく教えてくれます。
- ・ 日本は勿論、世界の名曲をわかりやすく教えていただくので、教室に通うのが楽しみです。
- ・ 和のマナーが特に良かったです。香典のお金の入れ方、座布団の取り扱い方等、勉強になりました。
- ・ 日常の食事時の箸の上げ・下ろし等、気づかずにしている事に気をつけようと思いました。

九州共立大学地域連携推進センター

2023年【前期】

公開講座開講一覧

美しい韓国語 韓国のドラマや旅行を楽しもう	
期間：5月9日～8月1日	
講師	朴 淑子
日程	5月9日・16日・30日
	6月6日・13日・20日・27日
	7月4日・11日・18日・25日
	8月1日
時間	10時00分～11時30分
受講料	12,000円
定員	10名

歌う喜び「世界の名曲」 日本や世界の歌を味わい、表現しよう	
期間：5月17日～7月19日	
講師	八代 眞知子
日程	5月17日・31日
	6月7日・21日
	7月5日・19日
時間	13時30分～15時00分
受講料	6,000円
定員	20名

書道技法講座 臨書に挑戦！！	
期間：5月12日～8月4日	
講師	古木 誠彦
日程	5月12日・19日・26日
	6月2日・9日・30日
	7月7日・14日・21日
	8月4日
時間	13時05分～14時35分
受講料	10,000円
定員	20名

想いをつぐむ「日常生活に役立つマナー」 いろいろマナーを気軽に学んでみよう！	
期間：6月14日～8月9日	
講師	野口 由香里
日程	6月14日・28日
	7月12日・26日
	8月9日
時間	13時00分～14時00分
受講料	5,000円
定員	8名

2023年【後期】

公開講座開講一覧

美しい韓国語 韓国のドラマや旅行を楽しもう	
期間：10月3日～2月6日	
講師	朴 淑子
日程	10月3日・10日・17日・24日・31日
	11月7日・21日
	12月5日・12日・19日・26日
	1月9日・16日・23日・30日
	2月6日
時間	10時00分～11時30分
受講料	12,000円
定員	10名

歌う喜び「世界の名曲」 日本や世界の歌を味わい、表現しよう	
期間：10月4日～1月24日	
講師	八代 眞知子
日程	10月4日・18日
	11月1日・22日
	12月6日・20日
	1月10日・24日
時間	13時30分～15時00分
受講料	6,000円
定員	20名

書道技法講座 臨書に挑戦！！	
期間：10月6日～2月2日	
講師	古木 誠彦
日程	10月6日・13日・20日
	11月17日・24日
	12月1日・15日・22日
	1月12日・19日・26日
	2月2日
時間	13時05分～14時35分
受講料	10,000円
定員	20名

想いをつぐむ「日常生活に役立つマナー」 いろいろマナーを気軽に学んでみよう！	
期間：10月25日～1月17日	
講師	野口 由香里
日程	10月25日
	11月8日・11月29日
	12月13日 1月17日
時間	13時00分～14時00分
受講料	5,000円
定員	10名

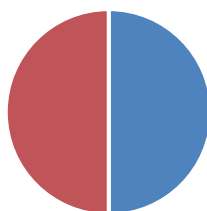
2023年度【前期・後期】市民カレッジ実績報告

北九州市立生涯学習総合センターと連携して行う事業で、市民の高度で専門的な学習ニーズに対応した学習機会を提供し、自己実現の促進、地域社会の活動向上及び生涯学習社会を担う人材の育成を図るために行う講座です。2023年度は、28名（男14名・女14名）の受講生数でした。

【市民カレッジ】

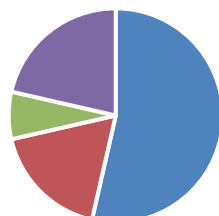
講座名	実施期間・回数	受講生数			担当講師
		男	女	合計	
スポーツ吹矢で免疫力を高めよう！（前期）	5/26～9/29 金曜日 10：00～11：30 10回	7	7	14	九州共立大学 名誉教授 信田 よしの
スポーツ吹矢で免疫力を高めよう！（後期）	10/27～2/16 金曜日 10：00～11：30 10回	7	7	14	
市民カレッジ 計		14	14	28	

性別



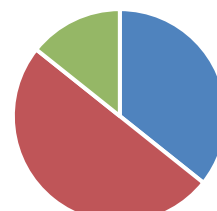
■ 男 ■ 女

居住地



■ 八幡西区 ■ 小倉北区
■ 小倉南区 ■ 若松区

年代



■ 60代 ■ 70代 ■ 80代

受講生アンケート

- ・楽しかったので続けたい。
- ・参加メンバーが同世代の方が多く、講座を通じての友人づくりに役立ち、とても楽しい時間を過ごせた。
- ・小グループで皆と楽しく受講できました。
- ・見学会が事前にあると良い。
- ・講座をつづけてほしいです。
- ・自分なりに楽しむことができて良かった。
- ・市民カレッジの事を知らない方が多いので、老人会、地域の広報などでアピールして頂きたいです。

九州共立大学地域連携推進センター
2023年【前期】
市民カレッジ開講一覧

スポーツ吹矢で免疫力を高めよう！	
期間：5月26日～9月29日	
講師	信田 よしの
日程	5月26日
	6月9日・23日
	7月14日・28日
	8月4日・25日
	9月1日・15日・29日
時間	10時00分～11時30分
受講料	10,000円＋傷害保険料
定員	12名

九州共立大学地域連携推進センター
2023年【後期】
市民カレッジ開講一覧

スポーツ吹矢で免疫力を高めよう！	
期間10月27日～2月16日	
講師	信田 よしの
日程	10月27日
	11月10日・24日
	12月8日・22日
	1月12日・19日・26日
	2月9日・16日
時間	10時00分～11時30分
受講料	10,000円＋傷害保険料
定員	12名

本学は株式会社フォーバルと包括連携協定を締結しました。

令和5年7月19日、本学は株式会社フォーバル（本社：東京都渋谷区神宮前）と包括連携協定を締結するため、本学において締結式を行いました。

締結式では、奥田学長から、「本学では情報化社会で活躍できる人材を輩出するため、教育課程として「データサイエンス領域」を新たに設け、情報やデータを経営やマネジメントに活かすための基礎的な知識・技能を身につけられる授業展開を予定しており、株式会社フォーバルとの連携により、より充実したデータサイエンス教育の提供が可能となります」と述べられました。

今後、GD X（グリーンおよびデジタル・トランスフォーメーション）の推進をテーマとした寄附講座の開講、また、インターンシップ事業が具体的に進められるところです。

この包括連携協定の締結を機に、株式会社フォーバルと本学が相互に連携し、株式会社フォーバルのさらなる発展や本学の教育の質向上を図るため、本学ができることを積極的に取り組む予定です。



左 株式会社フォーバル 中島 将典 代表取締役社長 右 九州共立大学 奥田 俊博 学長

本学は中間市と包括的地域連携協定を締結しました。

本学は、中間市と人材育成及び学術文化の向上発展に資するため、「包括的地域連携に関する協定」を締結することとなり、令和5年7月21日（金）、中間市役所において調印式を行いました。

調印式で奥田学長は、「中間市と本学が相互に連携し、中間市の更なる発展や本学の教育の質向上を図るため、地域に根差した大学として、「地域社会」と「学生の将来」を繋ぐ役割と責任を果たしてまいりたいと思います。」と、協定締結にあたっての意気込みを述べました。

今後はこの協定締結を契機に、以下の各事業について順次スタートする予定です。

- (1) 地域活性化に関すること。
- (2) 地域人材の育成に関すること。
- (3) 地域の福祉向上に関すること。
- (4) 地域のスポーツ振興に関すること。
- (5) 地域の生涯学習振興に関すること。
- (6) 学校支援に関すること。



左から：福原公子理事長、中間市長 福田健次様、奥田俊博学長



九州共立大学
KYUSHU KYORITSU UNIVERSITY

2023 年度 九州共立大学 地域連携推進センター 報告書

発行 令和 6 年 7 月

学校法人福原学園

九州共立大学 地域連携推進センター

〒807-8585 北九州市八幡西区自由ヶ丘1-8

TEL&FAX 093-693-3255 E-mail renkei-2015@kyukyo-u.ac.jp